

# 年 報

( 平成21年度 )

( 2 0 0 9 )

山梨県立大学看護学部

## 目 次

はしがき	-----	1
1 本学の概要	-----	2
1) 設立の趣旨・沿革	-----	2
2) 施設・設備	-----	3
3) 組織	-----	4
①組織図 ②領域別教員数 ③教員名簿		
2 学生の動向	-----	7
1) 学生数 2) 奨学金貸与状況 3) 入試状況 4) 健康管理状況 5) 卒業生進路状況 6) 国家試験合格状況		
3 教育概要	-----	11
1) 教育理念 2) 教育課程 3) 質の高い大学教育推進プロジェクト		
4 研究活動	-----	16
1) 専任教員の研究課題 2) 文部科学省科学研究費補助金 3) 共同研究 4) 海外派遣研修		
5 地域活動	-----	23
1) 教員の社会的活動 2) 公開講座実施状況 3) 県民コミュニティカレッジ 4) 図書館の利用状況		
6 研究業績一覧	-----	33
7 大学院看護学研究科	-----	46
1) 教育目的	-----	46
2) 教育課程	-----	47
①専門分野 ②開講予定科目及び専門分野履修モデル ③授業科目と担当教員		
3) 大学院生の動向	-----	51
① 生数 ②奨学金貸与状況 ③入試状況 ④健康管理状況 ⑤修論審査		

## はしがき

2005年（平成17年）4月に、大学の統合により山梨県立大学看護学部として新たなスタートを切り、2009年（平成21年）3月に第1回生が卒業いたしました。

大学の理念と目的は、地域に開かれた大学であり、地域的な視点と地球的な視点や個別的視点と総合的な視点を兼ね備え、学問的探求、豊かな人間性と専門職業能力を備えた人材育成、地域社会に対する実践的貢献を通し、豊かで生き生きとした社会の発展に寄与することにあります。

統合の利点を最大限に生かそうと努力した教育、また研究や社会貢献等の評価は、卒業生が今後社会の中でどのように活躍してくれるか、その真価が問われるのはこれからだと考えております。

本2009年度の山梨県立大学看護学部年報には、2009年4月から2010年3月までの学生の動向、教育活動、研究活動、地域活動などが研究分野ごと（各領域ごと）に記載されております。また、看護学研究科の動向も合わせて掲載されております。

本大学は、2010年4月からは新たに法人化され、大学の経営主体が変わります。今まで以上に、本学が教育や研究、地域貢献等を通し、広く社会に大学としての責務を果たしていくことを求められます。そのような意味からも、大学の教育活動や研究活動などを学内外に公表し、社会に還元していくことは重要であると考えます。本年報が、本学の自己点検評価の資料としても、また大学のさらなる発展のためにご活用いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、本年報の発刊のために多大な努力をいただきました小林たつ子紀要委員長をはじめとする委員の先生方、並びに関係職員の皆様に深く感謝いたします。

平成23年3月15日

山梨県立大学看護学部  
学部長 佐藤悦子

# 1 本学の概要

## 1) 設立の趣旨・沿革

山梨県では、超高齢化社会の到来に対して、健やかでやさしさ溢れる社会づくりの達成にむけて山梨県幸住県計画を策定し、1. 長寿社会への対応、2. 社会福祉の充実、3. 医療の充実、4. 健康づくりの体系、に基づき包括的、保健医療福祉体制の整備に向けて各種施策を展開している。

こうした中でますます高度化・専門家する医療や在宅ケアなど拡大しつつある看護の機能する場到的確に対応するため、看護の専門知識・技術に加えて高度な判断力、応用能力など資質の高い看護職者の育成、また、看護分野へ進学希望する者に対して魅力ある看護高等教育機関として、平成7年4月、山梨県立看護短期大学を新設した。

さらに、看護をめぐる諸情勢の変化、社会の看護ニーズの多様化などによって平成10年4月、質の高い看護専門職業人の育成を目指して、山梨県立看護短期大学の組織を改め、短期大学部を併設した山梨県立看護大学を開設した。

また、平成17年4月、人間や社会に対する学問的探求、豊かな人間性と専門的職業能力を備えた人材の育成、地域社会に対する実践的貢献を通して、豊かで生き生きとした社会の発展に寄与することを目指して、県立看護大学と県立女子短期大学が統合し、山梨県立大学として開学した。

### 【沿革】

昭和28年	4月	山梨県立高等看護学院の開校
昭和30年	4月	山梨県立高等看護学院に保健婦学科を併設
平成6年	4月	山梨県立高等看護学院の保健婦学科を保健学科に名称変更
平成7年	4月	山梨県立看護短期大学の開学
平成10年	3月	山梨県立高等看護学院の看護学科廃止
平成10年	4月	山梨県立看護大学の開学 山梨県立看護短期大学を、山梨県立看護大学短期大学部に名称変更
平成13年	3月	山梨県立高等看護学院閉校、同学院保健婦学科の廃止
平成14年	4月	山梨県立看護大学大学院の開設
平成15年	4月	新県立大学設置準備室の設置
平成16年	11月	文部科学大臣による山梨県立大学（国際政策学部、人間福祉学部、看護学部）、及び山梨県立大学大学院（看護学研究科）の設置認可
平成17年	4月	山梨県立大学及び山梨県立大学大学院開学 山梨県立看護大学学生募集停止（3年次編入を除く） 山梨県立看護大学大学院学生募集停止
平成20年	3月	山梨県立看護大学、山梨県立大学短期大学部閉学
平成21年	3月	山梨県立大学第一期生卒業

## 2) 施設・設備

校地・建物等（平成22年3月現在）

(1) 校地面積 43,752.98 m<sup>2</sup>

・校舎敷地面積	19,940.40 m <sup>2</sup>
・運動場（池田）	6,600.80 m <sup>2</sup>
・運動場（御勅使）	17,211.78 m <sup>2</sup>

(2) 建物 16,303.71 m<sup>2</sup>

・管理及び講義棟（RC3F）	2,586.60 m <sup>2</sup>
・実習及び講義棟（RC4F）	5,570.00 m <sup>2</sup>
・図書館及び研究棟（RC2F）	4,213.15 m <sup>2</sup>
・体育館（S1F一部2F）	1,139.00 m <sup>2</sup>
・大学院棟（RC5F）	2,611.14 m <sup>2</sup>
・新実習棟（RC2F）	1,938.75 m <sup>2</sup>
・その他	525.49 m <sup>2</sup>

図書の状態（平成22年3月）

(1) 蔵書状況

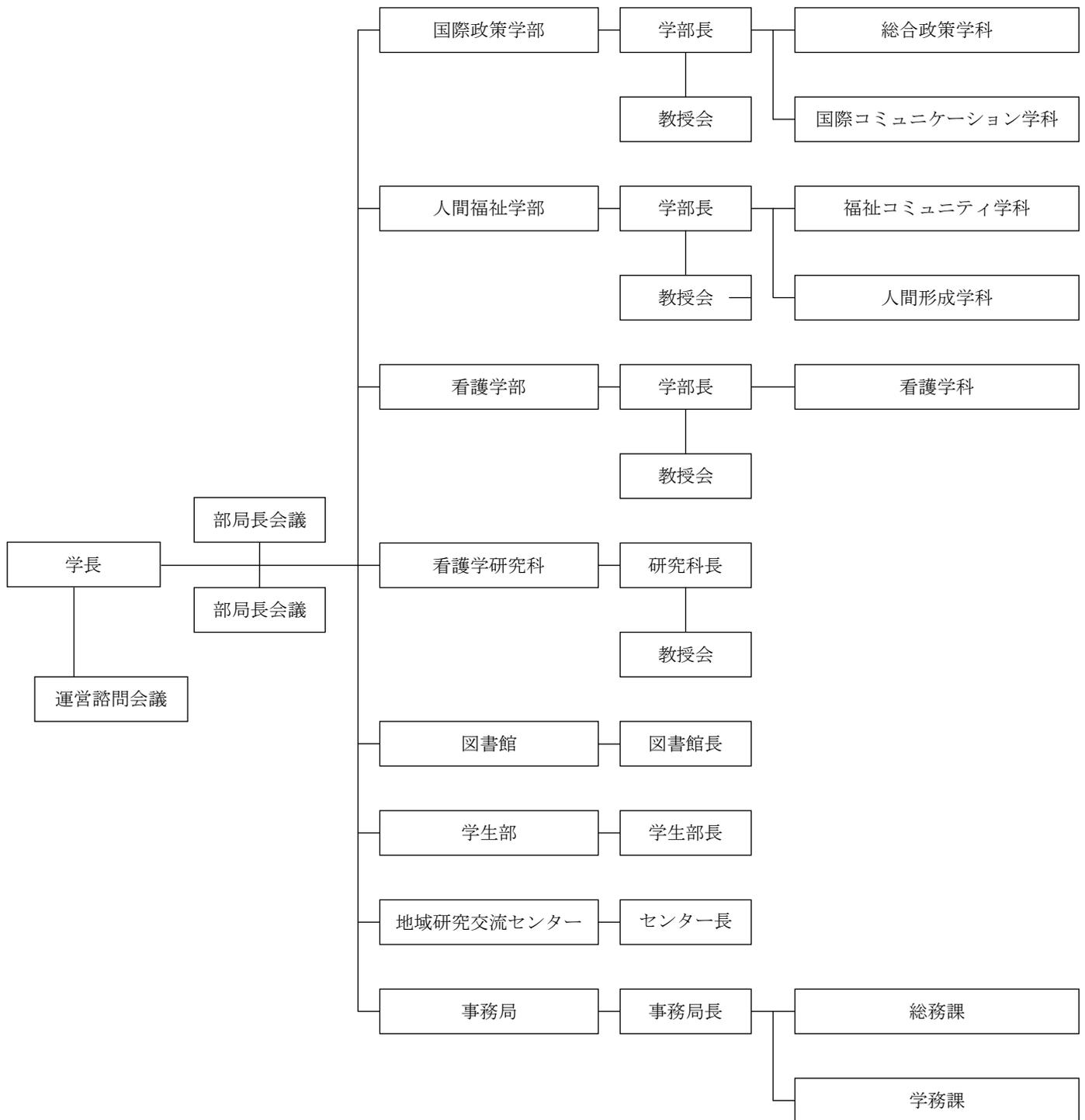
①蔵書数 74,076冊 ②学術雑誌 1,442種 ③視聴覚教材 1,982点

(2) 施設状況

①施設面積 989.46 m<sup>2</sup> ②閲覧席 123席 ③視聴覚設備 23セット

### 3) 組織

#### ①組織図



② 領域別教員数

(平成 21 年度)

領 域	計	教授	准教授	講師	助教	助手
看 護 関 連 科 学	5	3	1	1		
基 礎 看 護 学	7	1	2		3	1
地 域 看 護 学	8	2		3	3	
精 神 看 護 学	4	1	1	1		1
母 性 看 護 学	6	2	2	1	1	
小 児 看 護 学	3		1	2		
成 人 看 護 学	9	3	2	1	3	
老 年 看 護 学	4	1	1	1	1	
看 護 管 理 学	2	1		1		
看 護 教 育 学	2		1	1		
外 国 語	2		2			
合 計	52	14	13	12	11	2

③教員名簿 (平成 21 年度)

(役 職 者)

学 長 伊 藤 洋  
 看護学部長 佐 藤 悦 子  
 研究科長 松 下 由美子  
 図書館長 斉 藤 秀 子

(看護関連科学)

教 授 林 正 健 二                      教 授 文 珠 紀久野  
 教 授 小 田 切 陽 一                  准教授 百 々 雅 子  
 講 師 本 間 隆 之

(基礎看護学)

教 授 小 林 たつ子                      准教授 五 味 千 帆  
 准教授 森 本 美智子                  助 教 小 林 美 雪  
 助 教 溝 口 孝 美                      助 教 中 橋 淳 子  
 助 手 立 石 ゆ か

(地域看護学)

教授 佐藤悦子  
講師 郷洋子  
講師 泉宗美恵  
助教 望月宗一郎

教授 村松照美  
講師 依田純子  
助教 須田由紀  
助教 小尾栄子

(精神看護学)

教授 清水恵子  
講師 野澤由美

准教授 山田光子  
助手 渥美一恵

(母性看護学)

教授 石田貞代  
准教授 滝沢美津子  
講師 平田良江

教授 伏見正江  
准教授 名取初美  
助教 萩原結花

(小児看護学)

准教授 田淵和子  
講師 茂手木明美

講師 大久保ひろ美

(成人看護学)

教授 松下由美子  
教授 梶原睦子  
准教授 篠持千恵子  
助教 高岸弘美  
助教 山本奈央

教授 遠藤みどり  
准教授 渡辺かづみ  
講師 城戸口親史  
助教 井川由貴

(老年看護学)

教授 流石ゆり子  
講師 河野由乃

准教授 渡邊裕子  
助教 小山尚美

(看護管理学)

教授 田中彰子

講師 真下綾子

(看護教育学)

准教授 吉田文子

講師 吉澤千登勢

(外国語)

准教授 杉田由仁

准教授 長坂香織

## 2 学生の動向

### 1) 学生数

区分 入学年度	入 学	辞 退	異 動 状 況		
			退 学	休 学	留 年
21 年度	104 (4)	14 (2)	3	1	3

※ ( ) 内編入生

※ 休学者は現数

### 2) 奨学金貸与状況

区分 入学年度	日 本 学 生 支 援 機 構		山 梨 県 修 学 資 金	そ の 他 市 町 村 病 院 等	計
	第 一 種	第 二 種			
21 年度	21	29	19		69

### 3) 入試状況

年 度	区 分		募 集 定 員	出 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	合 格 者 倍 率
21	特別選抜	推薦	45	72	72	36	36	2.00
		地域		13	13	9	9	1.44
		社会人		6	6	2	2	3.00
	特別選抜 計		45	91	91	47	47	1.93
	一般選抜	前期	50	150	141	50	42	2.82
		後期	5	88	24	13	11	1.84
	一般選抜 計		55	238	165	63	53	2.61
	3年次編入学		5	7	7	5	4	1.40
合 計		105	336	263	115	104	2.28	

#### 4) 健康管理状況

##### ① 健康診断

	対象者	受診者	受診率	要精検者	要精検者
21年度	405	405	100.0%	35	8.6%

##### ② ツベルクリン検査

		受診者	陽性		陰性	
21年度	1回目	104	79	76.0%	25	24.0%
	2回目	73	63	86.3%	10	13.7%

5) 卒業生進路状況

		21年度	
進 学	大 学 院	0	
	そ の 他	1	
	小 計	1 (1.0%)	
就 職	看 護 師	県 内	34
		県 外	48
	保 健 師	県 内	4
		県 外	4
	助 産 師	県 内	5
		県 外	1
	養 護 教 諭	県 内	1
		県 外	0
	小 計		97 (97.0%)
	未 定		2 (2.0%)
合 計		100 (100.0%)	

## 6) 国家試験合格状況

### 保健師

	受験者数	合格者数	合格率
21年度	99 (1)	91 (1)	91.9%

※ ( ) 既卒者

### 助産師

	受験者数	合格者数	合格率
21年度	7	6	85.7%

### 看護師

	受験者数	合格者数	合格率
21年度	96 (3)	96 (3)	100.0%

※ ( ) 既卒者

### 3 教育概要

#### 1) 教育の理念

看護学部においては、人間や社会を看護学的に探究する能力と、看護の対象への「科学的知」と「哲学・倫理的知」とをもって看護実践に貢献できる能力を啓発します。さらに、専門的職業人としての豊かな人間性の育成をします。

#### 教育の目標

- ① 学問的探究心を持ち、看護学の発展に貢献できる看護実践者を育成します。
- ② 倫理的視点を科学的思考により、自己の考えや行動を決定し発展させることができる高い資質を持った看護実践者を育成します。
- ③ 保健・医療・福祉のチームの一員として協働し、指導者となる看護実践者を育成します。
- ④ 社会の動向や人々の関心を察知し、医療・看護を取り巻く状況を変革できる基礎的能力を養います。
- ⑤ 看護の対象となる、個人や家族、集団、地域社会について、多角的にとらえ実践できる能力を育てます。

## 2) 教育課程

授業科目の名称		単位数		履修方法及び修了条件	
		必修	選択		
人間存在領域	実践支持科目	解剖生理学	2		必修 25 単位を含めて、28 単位以上を修得すること。
		※人間の遺伝学 (*)	1		
		病原微生物学	2		
		※救急法 (*)	2		
		※人間工学		1	
		性のヘルスプロモーション (*)		1	
		※看護心理学		1	
		※人間関係論Ⅰ	2		
		※人間関係論Ⅱ	2		
		※リラクゼーション		2	
		※いのちの社会学		1	
		※生活健康科学	2		
		社会福祉学総論	2		
		保健福祉行政学	1		
		公衆衛生学	3		
		疫学	2		
		保健統計学	2		
		疫学	2		
		※災害支援		1	
		※国際協力		1	
※看護英語		2			
※医療英語		2			
実践領域	実践基礎科目	病態治療学	2		必修 81 単位を含めて、83 単位以上を修得すること。
		治療学各論Ⅰ	2		
		治療学各論Ⅱ	2		
		補完・代替医療		1	
		精神保健論	2		
		薬理学概論	1		
		臨床薬理学	1		
		看護学概論	2		
		看護理論	1		
		基礎看護技術論Ⅰ	1		
		基礎看護技術論Ⅱ	1		
		ヘルスアセスメント基礎論	1		
		看護課程展開論	1		
	実践応用科目	人間発達援助論	1		
		ヘルスアセスメント実践論	1		
		実践基礎看護技術Ⅰ	1		
		実践基礎看護技術Ⅱ	1		
		実践基礎看護技術Ⅲ	1		
		小児看護学Ⅰ	1		
		小児看護学Ⅱ	1		
		母性看護学Ⅰ	1		
		母性看護学Ⅱ	1		
		成人・老年臨床看護学Ⅰ	2		
		成人・老年臨床看護学Ⅱ	2		
		老年看護学	2		
		精神看護学	2		
		リハビリテーション看護論	1		
		感染看護学		1	
		がん看護学		1	
		クリティカルケア看護論		1	
		看護導入実習	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2		

授業科目の名称		単位数		履修方法及び修了条件	
		必修	選択		
実践領域	実践統合科目	小児看護学実習Ⅰ	1		卒業に必要な単位数 131 単位以上（全学共通科目含む）
		小児看護学実習Ⅱ	1		
		母性看護学実習	2		
		成人・老年臨床看護学実習Ⅰ	3		
		成人・老年臨床看護学実習Ⅱ	3		
		成人・老年療養支援実習	1		
		老年看護学実習	2		
		精神看護学実習Ⅰ	1		
		精神看護学実習Ⅱ	1		
	実践統合科目	公衆衛生看護学概論	2		
		地域保健活動論Ⅰ	3		
		地域保健活動論Ⅱ	2		
		学校保健論	2		
		産業保健論	1		
		公衆衛生看護学実習	4		
		看護管理学	2		
		看護教育学	1		
		家族看護学	1		
		在宅看護概論	1		
		在宅看護活動論	2		
		在宅看護論実習	2		
		専門職連携演習	1		
		看護実践総合演習	1		
	看護統合実習	2			
	助産課程科目	助産学概論（*）		1	
		周産期治療学（*）		1	
		助産新生児医療論（*）		1	
		助産診断技術学Ⅰ（*）		2	
		助産診断技術学Ⅱ（*）		4	
		助産地域活動論（*）		1	
		助産管理学（*）		1	
		助産学実習（*）		5	
		助産継続援助論実習（*）		4	
研究領域	文献購読セミナー	1		必修3 単位を修得すること。	
	研究概論	1			
	看護研究セミナー	1			
哲学・倫理領域	※ケアのジェンダー学（*）		1	必修1 単位を修得すること。	
	※生命倫理		1		
	看護倫理学	1			
合計		110 単位	38 単位		

注

- ※印がつけられた看護学部課程科目における学部教養科目 12 単位以上（必修科目 9 単位を含む）を履修し、全学共通科目との単位数合計、28 単位以上が卒業要件となる。
- 助産師国家試験を受けようとする者は、（\*）がつけられた科目の単位を修得しなければならない。

### 3) 質の高い大学教育推進プロジェクト

平成 20 年度 採択 テーマ「学祭統合型専門職連携教育推進プロジェクト」

GP とは「Good Practice」の頭文字を取ったもので、文部科学省は大学における学生教育の質の向上を目指す個性・特色ある優れた取り組みを選び、その取り組みをサポートしている。本取り組みは、平成 20 年度、488 大学等から 939 件の申請があり「質の高い大学教育推進プログラム」の分野で 148 件の取り組みが選定されたうちのひとつである。平成 20 年度より 3 年間の補助を頂き実施している。

#### <平成 21 年度実績>

平成 20 年度の成果と課題をふまえ、看護学部及び人間福祉学部の学生が協働して、「地域包括支援センター」を核としたフィールドに入り、地域住民の生活及び健康ニーズを考えることを目的に 3 か所の甲府市地域包括支援センターで専門職連携演習（高齢者への聞き取り調査）を実施した。演習の成果は、学生による合同発表会において報告され、学生 325 名、学内教職員、甲府市や地域包括支援センター職員、地域住民で専門職連携の意義や課題について意見交換をした。

#### ◆フィールド演習

日 時：平成 22 年 2 月 6 日（土）9:00～17:00

演習場所：おおくに地域包括支援センター、きょうりつ地域包括支援センター、甲府西地域包括支援センター

参加した学生：看護学部 103 名、人間福祉学部 63 名

担当教員：佐藤悦子、吉澤千登勢、河野由乃、清水恵子、須田由紀、望月宗一郎、泉宗美恵、中橋淳子、山本奈央（看護学部）  
神山裕美、小野興子、大澤準一、横山貴美子、伊藤健次、山田千明、柳田正明、大澤準一（人間福祉学部）

#### ◆合同発表会

日 時：平成 22 年 4 月 17 日（土）9:00～16:30

場 所：池田キャンパス 講堂

参加者：看護学部、人間福祉学部 4 年生 160 名、3 年生 165 名、甲府市職員 3 名、甲府市地域包括支援センター職員 10 名、学内教職員 34 名、地区民生児童委員 2 名

#### ◆甲府市地域包括支援センター職員研修

地域包括支援センターの活動における「課題の明確化」「課題解決に向けての解決策の検討」「解決策実践の検証と今後の課題の明確化」を、話し合いのプロセスに KJ 法を活用し、検討した戦略を実践し評価した。

日 時：平成 21 年 5 月 1 日、5 月 22 日、6 月 26 日、7 月 18 日、  
平成 22 年 2 月 18 日、3 月 4 日

場 所：池田キャンパス 101 講義室

参加者：甲府市地域包括支援センター職員 184 名、甲府市職員 24 名、学内教職員 69 名（延べ数）

◆合同フォーラムの開催

平成 21 年 6 月 20 日に合同フォーラムを開催した。テーマは「地域での多職種連携を進めるために～日米の取り組みからチームアプローチを考える～」とし、本学学生や教職員、地域包括支援センター職員、訪問看護ステーション職員、地域民生委員等 192 名の参加があった。

## 4 研究活動

### 1) 専任教員の研究課題 2009年度

氏名	職位	研究テーマ
(看護関連科学) 林正 健二	教授	1. 在宅における終末期医療相談 2. 看護学教育における医学的知識の教授方法
文珠 紀久野	教授	1. 戦乱による子どもの心的外傷に関する調査研究 -東ティモールにおける孤児の実態調査 2. 心理療法における Therapist の変化成長過程に関する研究 Discourse Analysis Approach からの Therapist の発語行為の分析 3. 「人間関係トレーニング」におけるファシリテーションに関する研究
小田切 陽一	教授	1. Age-period-cohort 分析による都道府県別自殺動向の世代特徴の解明 科学研究費基盤研究 (C) により実施 (継続) 2. 青少年自殺動向の地域差に関する研究 3. 山梨県の自殺率と社会要因との相関分析 4. 自殺予防対策にむけた心の健康調査 (勤労者編) 5. 学童期の運動能力の推移における世代影響の解明 6. 山梨県内企業における雇用形態の違いによる健康管理活動の差異 7. 小核形成におけるゲノムの不安定性誘導に関する検討
百々 雅子	准教授	1. 家族の社会学的研究 2. ジェンダーの研究 3. 医療社会学の研究 4. リラクセーションの実践的研究
本間 隆之	講師	1. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「インターネット利用層への行動科学的 HIV 予防介入とモニタリングに関する研究 (Men who have Sex with Men 対象の行動疫学調査)」 (研究協力者) 2. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究」 (研究協力者) 3. 地域で行われている社会活動に関する調査 4. ベイズ型 Age-Period-Cohort 分析による児童・生徒への体力・運動能力の年齢・時代・世代効果の影響～体力・運動能力調査を用いた 2 次データ解析～
(基礎看護学) 小林 たつ子	教授	1. 尿失禁ケアに関する研究夜間頻尿のある高齢者に対する足浴の効果 2. 骨盤底筋の強化に関する検討 3. 腰痛に関する研究 4. アクチグラフの音センサーを用いた体位変換による腸蠕動の促進に関するエビデンスの検討 5. 新卒者と臨床経験 5 年以上の看護師のアセスメントから看護診断に至る思考過程の比較検討ーグループインタビューからの内容分析よりー
五味 千帆	准教授	1. 基礎看護技術に関する研究 基礎看護技術の科学的根拠 (エビデンス) およびその教育方法に関する研究 2. すぐれた看護実践に関する研究 熟練看護師の看護実践からすぐれた看護実践に必要な要素を導く研究
森本 美智子	准教授	1. 看護ケアにおけるシソの精油の抗菌・保湿効果 2. ナースウエアに関する研究 (ア) 平成 21 年度～23 年度科研費補助 (基盤研究 C 分担)

氏名	職位	研究テーマ
小林 美雪	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨県立大学看護学部共同研究「看護師の注射業務における有効な安全確認行為の検証」</li> <li>2. 厚生労働科学研究費補助金「医療機関の規模や特徴に応じた患者安全のための効果的な職員研修カリキュラムの作成とその活用に関する研究」</li> <li>3. 文部科学省科学研究費補助金「ワーク・ライフ・バランス（WLB）を考慮した潜在看護師の雇用形態のモデル化と検証」</li> <li>4. 厚生労働科学研究費補助金「医療関連死の調査分析に係る研究」分担研究「調整看護師の業務マニュアル案作成」</li> <li>5. 地域研究交流センター共同研究「動作解析ソフトウェアを活用した介護・看護・リハビリ分野に共通する動作の分析」</li> </ol>
溝口 孝美	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程におけるアセスメントの空洞化現象に対する教育プログラム開発</li> </ol>
中橋 淳子	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん性疼痛コントロールに対する看護師の態度と実践の関連――一般病院、大学病院、がん専門病院、緩和ケア病棟の質問紙調査から――</li> <li>2. 新卒者と臨床経験5年以上の看護師のアセスメントから看護診断に至る思考過程の比較検討―グループインタビューからの内容分析より―</li> </ol>
立石 ゆか	助手	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程におけるアセスメント空洞化現象に対する教育プログラム開発</li> </ol>
(地域看護学) 佐藤 悦子	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続看護の実態とそれに関連する要因に関する研究</li> <li>2. 専門職連携教育に関する研究</li> </ol>
村松 照美	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市町村保健師の行う地域診断に関する研究</li> <li>2. 保健行動に関する研究</li> <li>3. 少子高齢化時代の地域ネットワークに関する研究</li> </ol>
依田 純子	講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者等を介護する家族への地域住民ピアサポーターによる支援の有効性</li> <li>2. 認知症高齢者を介護する家族の精神的健康に関連する要因―在宅介護を継続している主介護者を対象として―</li> </ol>
郷 洋子	講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアを地域で支えるフォーマル、インフォーマル組織を対象に、認知症高齢者のケア啓発における各組織の抱える課題を明らかにし、その知見を踏まえ、認知症に対する新しいケアの理念・知識を提供すると共に、認知症高齢者と直接触れ合う『体験学習』等を組み入れた認知症啓発のための研修プログラムを企画・実施・評価し、認知症高齢者ケア啓発活動における課題を明らかにする</li> </ol>
泉宗 美恵	講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者の医療ケアを行う家族の介護ストレスに及ぼす介護環境の影響</li> <li>2. 認知症の人を介護する家族への地域住民サポーターによる支援</li> <li>3. 継続看護における看護職間の連携の実態に関する調査</li> </ol>
須田 由紀	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児のアレルギー性疾患および感染症罹患に関わる母子の要因について～母乳中の TGF-<math>\beta</math> 濃度に焦点をあてて～</li> <li>2. 継続看護における看護職間の連携の実態に関する調査</li> </ol>
望月 宗一郎	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括支援センター職員のストレス対処に焦点を当てた現任教育プログラムの開発、若手研究（B）平成 21～23 年度文部科学省研究振興局科学研究費</li> </ol>

氏名	職位	研究テーマ
小尾 栄子	助教	1. 広汎性発達障害児を育てている家族への支援 2. 山梨県内在住の定住外国人および訪県外国人の保健支援に関する研究 3. 忍野村との連携協定に関すること 4. やまなしライフサポートによるホームレス住民の健康調査と健康支援
(精神看護学) 清水 恵子	教授	1. 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究
山田 光子	准教授	1. 暴力や威嚇状態にある患者への看護介入に関する研究 2. 統合失調症患者のセルフスティグマが自尊感情に与える影響
野澤 由美	講師	1. 精神科クリニカルパスに関する研究 2. 精神科訪問看護に関する研究 3. 精神科薬物療法と看護に関する研究
渥美 一恵	助手	1. 看護基礎教育における「当事者参加授業」に関する研究
(母性看護学) 石田 貞代	教授	1. 認知行動療法を活用した褥婦への長期咀嚼指導に関する無作為化比較研究 2. 妊娠期における出産・育児準備行動への効果的援助の重要点
伏見 正江	教授	1. 女性のヘルスエンパワーメント教育プログラム開発 ～思春期のヘルスプロモーションに関する実証研究～ 2. 性と生殖における看護学教授法～ジェンダーの視座より臨地実習におけるケアリング経験の探求～ 3. 女性の健康とジェンダー 4. 地域と協働する性と生殖のヘルスプロモーション研究
滝沢 美津子	准教授	1. 妊娠出産子育て基本調査-妊娠出産子育てをめぐる妻の年齢要因- 2. 女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究
名取 初美	准教授	1. 妊娠経過における骨盤底筋力の変化・正常妊婦と子宮頸管無力症妊婦の比較
平田 良江	講師	1. 妊娠による姿勢の変化が妊婦の重心動揺に与える影響 2. 妊娠経過における骨盤底筋力の変化・正常妊婦と子宮頸管無力症妊婦の比較
萩原 結花	助教	1. 「出産・育児準備行動尺度」の妥当性・信頼性について 2. 女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究ー上野原市・甲府市の70歳以上の女性に関する実態調査ー
(小児看護学) 田淵 和子	准教授	1. 子ども虐待の予防と対策に関する研究ー関東甲信越静地区における里親の養育の現状ー 2. 母親の育児不安の軽減への支援
大久保 ひろ美	講師	1. 小児看護学における実習指導に関する研究 2. 小児看護技術に関する研究
茂手木 明美	講師	1. 小児期の睡眠パターンの特徴と睡眠関連要因に関する研究 2. 現代社会における育児支援に関する研究
(成人看護学) 松下 由美子	教授	1. 看護師の注射業務における有効な安全確認行為の検証 2. 看護師のキャリア・プラトー現象とその影響要因に関する研究

氏名	職位	研究テーマ
		3. 術後疼痛管理に関する研究
遠藤 みどり	教授	1. 術後疼痛管理に関する研究 2. 学習・発達障害のある看護師／看護学生の実態調査
梶原 睦子	教授	1. ストーマ保有者のおいに対する不安
渡辺 かづみ	准教授	2. 看護学生の救急車同乗実習における学習内容 3. 初療室実習を通しての学生の学び
籠持 智恵子	准教授	1. 虚血性心疾患患者のセルフモニタリング実践の効果と影響要因～非実践者との比較から 2. 看護基礎教育機関における技術教育の検討
城戸口 親史	講師	1. 看護職者の職業感染予防に関する研究
山本 奈央	助教	1. 外科系病棟における看護師への術後疼痛管理教育の効果に関する研究
高岸 弘美	助教	1. 化学療法を受けている患者におけるクライオセラピーの効果に関する研究
井川 由貴	助教	1. 術後疼痛管理に関する研究
(老年看護学) 流石 ゆり子	教授	1. 認知症高齢者の地域支援に関する研究 2. 意思決定困難な高齢者の終末期のケアに関する研究 3. 閉じこもり高齢者への支援方法に関する介入研究
渡邊 裕子	准教授	1. 高齢者と若者の世代間交流と高齢者の社会貢献に関する研究 2. 高齢者の若者イメージに関する研究 3. 認知症高齢者の適応問題と看護に関する研究 4. 地域で生活する高齢者の健康と生活に関する研究
河野 由乃	講師	1. 農山村に暮らす後期高齢者の生活に関する研究 2. ケアマネジメント及び専門職連携に関する研究
小山 尚美	助教	1. 地域で暮らす高齢者のケア及びニーズに関する研究 2. 認知症高齢者を地域で支えるための研究 3. 高齢者イメージに関する研究
(看護管理学) 田中 彰子	教授	1. 看護師のキャリア・プラトー現象とその影響要因に関する研究 2. 先駆的に人員配置マネジメントシステムを導入した医療機関の実態調査 3. 看護必要度の効果的な教材と研修方法の開発に関する研究
真下 綾子	講師	1. 先駆的に人員配置マネジメントシステムを導入した医療機関の実態調査および人員配置マネジメントシステム概念モデルの構築 2. 看護系大学における教員の「教育力」を培うための課題の明確化－看護基礎教育における学士力の獲得に着眼して－
(看護教育学) 吉田 文子	准教授	1. 看護技術力向上にむけた教育方法の研究 2. 看護師のキャリア・プラトー現象に関する研究
吉澤 千登勢	講師	1. 患者の権利とナーシング・アドボカシーに関する研究 2. 専門職連携教育(IPE)における教育プログラムの実践・評価に関すること

氏名	職位	研究テーマ
(外国語) 杉田 由仁	准教授	3. 看護系大学における教員の「教育力」を培うための課題の明確化  1. タスクによるライティング能力の評価に関する基礎的研究 2. コミュニケーションを志向した教材がライティングの不安感に及ぼす効果 3. 日本人英語学習者のライティングにおける産出レベル
長坂 香織	准教授	1. 山梨県における在住外国人と医療・福祉 2. 看護学生への異文化間教育（多文化共生教育） 3. 市民団体、大学、行政の連携と学生の学び

2) 文部科学省科学研究費補助金

(単位:千円)

年度	区分	研究の名称	研究代表者	補助額
21	基盤C一般	①外科系病棟における看護師への術後疼痛管理教育の効果に関する研究	教授 遠藤 みどり	3,300
	基盤C一般	②妊娠経過における骨盤底筋力の変化 正常妊娠と子宮頸管無力症妊婦の比較	准教授 名取 初美	1,800
	若手B	③地域包括支援センター職員のストレス対処に焦点を当てた現任教育研修プログラムの開発	助教 望月宗一郎	1,400
	若手スタ	④人員配置マネジメントシステムの構築	講師 真下綾子	1,220

### 3) 共同研究

年度	研究テーマ	共同研究代表
21	①看護師の注射業務における有効な安全確認行為の検証	助教 小林 美雪 他
	②認知症高齢者を介護する家族への地域住民ピアサポーターによる支援の有効性	講師 依田 純子 他
	③森の力を活かした出産のヘルスプロモーション研究 ～助産師によるマタニティ森林療法の実践から～	教授 伏見 正江 他
	④本学部4年次生の実践領域臨床系看護学実習におけるポートフォリオ活用状況の検討	教授 清水 恵子 他
	⑤看護大学における教員の「教育力」を培うための課題の明確化 ～看護基礎教育における学士力の獲得に着眼して～	講師 真下 綾子 他
	⑥新卒者と臨床経験5年以上の看護師のアセスメントから看護診断に至る思考過程の比較検討～看護過程支援システムを用いた標準計画またはNANDA-NOC-NICの実態調査より～	教授 小林 たつ子 他
	⑦看護学生との交流による地域リーダー高齢者の活動への満足度・心理・若年像の変化ー「交流事業」参加前後の比較からー	准教授 渡邊 裕子 他
	⑧看護師のキャリア・プラトリー化に影響を及ぼす要因 ーA県内の病院で働く看護師を対象にー	教授 松下由美子 他

### 4) 海外派遣研修

年度	研修員氏名	研修期間 研修先	研修課題
21	教授 文珠 紀久野	平成21年9月 東ティモール	戦乱による子どもの心的外傷に関する調査研究ー東ティモールにおける孤児の実態調査
	教授 佐藤 悦子	平成21年12月 韓国	高麗大学校看護大学との国際交流に関わる調査
	教授 小田切 陽一	平成21年12月	高麗大学校看護大学との国際交流に関わる調査

## 5 地域活動

### 1) 教員の社会的活動 2009年度

氏名	職位	社会的活動
(看護関連科学) 林正 健二	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省「今後の看護教員のあり方に関する検討会」委員「医道審議会臨時委員(保健師助産師看護師分科会員)」</li> <li>山梨県准看護師試験委員</li> <li>NPO 法人山梨ホスピス協会理事</li> </ol>
文珠 紀久野	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本臨床心理士資格認定協会 研修理事</li> <li>山梨臨床心理士会 幹事及び研修委員長</li> <li>南部地区特別支援連携協議会 会長</li> <li>増穂町 就学指導委員会委員長</li> <li>南部地区就学指導委員会 委員長</li> <li>Japan Laboratory Trainers Association 幹事及び事務局長</li> <li>山梨グループ研究会 会長</li> </ol>
小田切 陽一	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境省健康リスク評価委員会委員</li> <li>山梨県環境科学研究所課題評価委員会委員</li> <li>山梨産業保健推進センター相談員(保健指導担当)</li> <li>健康長寿やまなし推進本部委員(山梨県)</li> <li>健康づくり推進協議会委員(上野原市)</li> <li>山梨県いのちのセーフティネット連絡協議会委員(山梨県)</li> </ol>
百々 雅子	准教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>山梨産業保健推進センター 産業保健特別相談員</li> <li>日本保健医療社会学会 評議員</li> <li>がん患者会「支えあう会α」気功教室 主宰</li> </ol>
本間 隆之	講師	
(基礎看護学) 小林 たつ子	教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>韮崎市立病院臨床看護研究指導 2009.4~2010.3 (1回平均/月)</li> <li>山梨県看護協会峡南地域看護研究発表会 講評 2010.2.16</li> <li>韮崎市立病院臨床看護研究発表会 講評 2010.3.13</li> <li>春日居リハビリテーション病院臨床看護研究発表会 講評 2010.2.27</li> <li>山梨県看護協会 教育委員会会長</li> <li>山梨県医療機関等就学環境改善アドバイザー <ul style="list-style-type: none"> <li>・市川三郷町立病院看護研究指導(講師)(7,8,9,10,11月1回/月)</li> <li>・ツル虎ノ門外科リハビリテーション病院看護記録指導(講師)</li> </ul> </li> <li>山梨県実習指導者講習会講師 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護理論(講義,演習)</li> <li>・看護過程の展開(講義,演習)</li> </ul> </li> <li>K-ネットカンファレンス(講演)夜間頻尿と足浴,キッセイ薬品プロダクトマネージメントグループ,2010.2.4</li> </ol>
五味 千帆	准教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>山梨県看護協会主催 看護研究講習会講師</li> <li>山梨県実習指導者講習会講師 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護理論(講義,演習)</li> <li>・看護過程の展開(講義,演習)</li> </ul> </li> <li>韮崎市立病院 看護研究指導</li> </ol>
森本 美智子	准教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>山梨県実習指導者講習会看護過程演習(8月)グループワーク担当メンバー</li> </ol>
小林 美雪	助教	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療の質・安全学会 研修委員会委員及びネットワーク委員</li> </ol>

氏名	職位	社会的活動
		2. 第4回医療の質・安全学会 学術集会企画運営委員 3. 第14回日本看護管理学会 学術集会企画委員 4. (財)日本医療機能評価機構 研修インストラクター (業務行程・RCA分析) 5. 山梨医療安全研究会役員 6. 山梨ホスピス協会理事 7. 日本の医療安全対策における動向と看護基礎教育での医療安全の 取り組み, 社) 千葉看護協会「医療安全管理者養成研修」, 2009. 8. 国の医療安全対策と基礎看護教育における授業, メディカ出版看護 教育力UP, 東京・大阪, 2009.
溝口 孝美	助教	
中橋 淳子	助教	1. 看護研究指導 (講師) 1) 韮崎市立病院 研究テーマ2題担当 2) 山梨赤十字病院 研究テーマ5題担当 2. 看護過程・看護記録指導 (講師) 三生会病院 (5病棟) 3. 山梨県臨床指導者講習会 (看護理論) (講師) 4. 山梨県臨床指導者講習会 (看護過程の展開) (講師)
立石 ゆか	助手	1. 山梨県医療機関等就学環境改善アドバイザー ・湯村温泉病院看護記録指導 (講師)
(地域看護学) 佐藤 悦子	学部長	1. 山梨県認知症対策推進会議 座長 2. 山梨県小児保健学会 理事 3. 山梨県訪問看護推進協議会 理事 4. 山梨市認知症地域連携強化事業 スーパーバイザー 5. 山梨県立介護実習普及センター運営委員会 座長 6. 山梨県在宅ホスピス連絡会議 委員 7. 山梨県中北保健所管内在宅ホスピス連絡会議 委員 8. 継続看護のための継続研修 講師 富士東部保健所 中北保健所 峡北支所 峡南保健所 9. 山梨県訪問看護師認定講習 講師 10. 山梨県介護支援専門員更新研修 講師 11. 山梨県臨床実習指導者講習会 講師 12. 山梨県保健師等臨床研修 13. 看護質的統合法 講師 (KJ法) 研修会 監事
村松 照美	教授	1. 山梨県公害審査委員候補者委託 2. 山梨県発達障害支援企画・推進委員 3. 昭和町厚生事業計画策定懇話会委員 4. 山梨県母性衛生学会理事 5. 日本福祉工学会評議員 6. 保健師現任教育 講師及び個別指導 (峡東保健福祉事務所) 7. 健診データ・レセプトデータを活用した評価のあり方研修会講師 8. 忍野村包括連携協定推進委員
依田 純子	講師	1. 認知症介護実践研修 (実践リーダー研修) 講師 2. ヒルズ勝沼職員研修 講師 3. 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 講師 4. 昭和町介護支援専門員研究会 講師 5. 山梨県認知症対策連携強化事業 スーパーバイザー
郷 洋子	講師	1. 訪問看護師養成講習会 (訪問看護研修ステップ1) 「難病患者の看護 在宅における難病患者の理解」講師 (山梨県看護協会)
泉宗 美恵	講師	1. 山梨県介護支援専門員研修専門課程・更新研修Ⅱ講師

氏名	職位	社会的活動
須田 由紀	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 山梨県看護協会主催「事例に学ぶ退院後の生活を見据えた地域連携」研修会演習講師</li> <li>3. 峡東看護研究会主催「継続看護研修会」講師 2009.12.12</li> <li>4. 城西高校連携授業「家庭・介護」講師 2010.1.12</li> <li>5. 山梨県看護協会在宅ケア推進委員</li> </ul>
望月 宗一郎	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学際統合型看護専門職連携教育開発プロジェクトワーキングチーム構成員</li> </ul>
小尾 栄子	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 甲府市石田地区高齢者介護予防実態調査支援, 甲府市</li> <li>2. 保健師現任教育研修講師, 峡南保健福祉事務所</li> <li>3. 健診データ・レセプトデータを活用した評価のあり方研修会講師, 山梨県保険者協議会・山梨県国民健康保険団体連合会</li> <li>4. 小児救急医療体制実態調査指導, 峡南保健福祉事務所</li> <li>5. 全教福関東ブロック必須調査研究事項(喫煙対策調査)指導, 山梨県福利給与課</li> <li>6. 保健師現任教育(課題解決型研修)講師, 「保健活動の評価」中堅期・リーダー期保健師グループ研修指導, 峡東保健福祉事務所・山梨県国民健康保険団体連合会</li> </ul>
(精神看護学) 清水 恵子	教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. YIHSN(やまなし国際保健支援ネットワーク) 役職: 会計</li> <li>2. やまなしライフサポート 役職: 健康相談担当保健師</li> <li>3. 医療通訳セミナー 役職: グループワーク指導担当</li> <li>4. 甲府東高校ミニ大学出前講座「日常生活でおこりやすいけがの応急処置」講師</li> <li>5. やまなし国際保健支援ネットワーク(YIHSN), 健康教育「新型インフルエンザ予防とメタボリック・シンドローム予防について」講師</li> <li>6. やまなし国際保健支援ネットワーク(YIHSN)・中央市国際交流協会, 健康教育「新型インフルエンザ予防について」講師</li> </ul>
山田 光子	准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 本学地域交流研究センター 交流・支援部 出前講座 講師 ・実施日(場所): 2009.11.10(甲府城西高校)</li> <li>・テーマ: 高校生にもできる自殺予防について</li> <li>2. 第17回山梨看護学会学術集会企画委員 ・委嘱期間: 2009.4.1~2010.3.31</li> <li>3. 山梨県就業環境改善アドバイザー派遣事業 講師</li> </ul>
野澤 由美	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨県看護協会看護研究講師</li> <li>2. 山梨県実習指導者講習会において「実習指導の対象理解①②」</li> </ul>
渥美 一恵	助手	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨県実習指導者講習会 講師</li> <li>2. 山梨県就業環境改善アドバイザー派遣事業 講師</li> <li>3. 広報委員会 塩山高校出前講義 講師</li> </ul>
(母性看護学) 石田 貞代	教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 日本看護科学学会査読委員</li> <li>2. 日本看護科学学会和文論文査読委員</li> <li>3. 日本助産学会査読委員</li> <li>4. 山梨県母性衛生学会監事</li> <li>5. やまなし HIV/AIDS サポートネットワーク会員</li> <li>6. 市立甲府病院「倫理Ⅰ」「倫理Ⅱ」研修講師</li> </ul>

氏名	職位	社会的活動
伏見 正江	教授	7. 国立病院機構甲府病院「看護研究」研修講師 8. やまなしヘルスケア情報分析研究会主催 1. 外務省国際救急医療対策チーム員 2. 山梨県女性相談所苦情解決第三者委員 3. 甲府市男女共同参画審議委員 4. 山梨県男女共同参画推進センター運営協議会委員 5. 山梨女性健康ネットワーク代表 6. 北杜森林療法協議会副代表 7. アフター北京, やまなし・女・こころ・からだトーク主宰, 「女性の心とからだ相談(リプロ相談)室」電話相談, 1993. 4～現在に至る 8. 山梨県立中央病院, 「いちごの会」「双子の会」ボランティア, 1998年より現在に至る 9. 山梨県立大学地域交流研究センター, やまなし地域女性史研究プロジェクト～助産師の聞き書き指導 2005. 12～現在に至る 10. 山梨県実習指導者講習会講師, 2000. 9～現在に至る 11. 女性健康ネットワーク学習会:山梨県におけるプライマリマタニティケア連続学習講座, 2007. 4～現在に至る 12. 山梨県立男女共同参画推進センター主催「市民企画講座」「ピアカウンセリング」, 2000. 8～現在に至る 13. マタニティ森林療法とは, 山梨県北杜市長坂町地域委員会, 2009. 5. 9 14. 性のヘルスプロモーション, 山梨英和大学, 2009. 5. 26 15. 女性の健康と人権, 南アルプス市生涯学習課, 2009. 5. 29 16. 思春期の健康, 山梨学院大学附属高等学校, 2009. 7. 9 17. 思春期の健康とピアカウンセリング～HIV 予防に向けて～, 山梨県中央市玉穂中学校, 2009. 7. 10 18. 思春期のヘルスプロモーション, 山梨県総合教育センター, 2009. 8. 17 19. DV 被害と健康, 女性の人権サポートクローバー, 2009. 8. 29 20. 山梨県立塩山高校「ピアカウンセリング」, 2009. 9. 14 21. 山梨県北杜市武川中学校「ピアカウンセリング」, 2010. 3. 9 22. 山梨県北杜市大泉町泉中学校「ピアカウンセリング」, 2010. 3. 9
滝沢 美津子	准教授	
名取 初美	准教授	1. 山梨県看護協会助産師職能理事 2. 山梨県周産期医療協議会委員 3. 山梨母性衛生学会理事 4. 山梨大学院内助産事業評価委員 5. 山梨県立大学看護学科同窓会白樹会事務局長 6. 富士吉田市立病院看護研究研修会講師 2009. 4～2010. 3 (年4回) 7. 市立甲府病院看護研究指導 2009. 4～2010. 3(年5回) 8. 山梨県消防職員専科教育救急科講師 2009. 10. 26 9. 山梨県救急救命士研修会講師 2009. 10. 6 10. 甲州市思春期保健事業乳児ふれあい体験学習講師 2009. 10. 13
平田 良江	講師	1. 山梨県看護協会主催 看護研究講師 2. 山梨県消防職員専科教育救急科 講師 (2009. 10. 26) 3. 甲州市思春期保健事業乳児ふれあい体験学習 講師 (2009. 10. 13) 4. 富士吉田市立看護専門学校 非常勤講師 5. 国立病院機構甲府病院 看護研究指導講師
萩原 結花	助教	1. 甲府市立病院看護研究指導 (年間を通し9G指導)
(小児看護学) 田淵 和子	准教授	1. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (中央幼児教育センター8ヶ月～1歳3ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」

氏名	職位	社会的活動
大久保 ひろ美	講師	講師 (全2回) 2. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (北部幼児教育センター8ヶ月～1歳3ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全2回) 3. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (中道つどいの広場 8ヶ月～1歳3ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全2回) 4. 日本小児看護学会誌 (含: 日本小児看護学会学術集会投稿原稿) 専任査読者 5. 山梨県臨床実習指導者講習会講師「小児看護学の教育と実習」講義担当 6. 山梨県立甲府城西高校『出前授業』講師 7. 山梨県立市川高校 大学模擬講義 講師
		1. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (中央幼児教育センター3ヶ月～8ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全3回) 2. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (中央幼児教育センター8ヶ月～1歳3ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全1回) 3. 山梨看護学会学術集会 発表演題査読委員 4. 山梨県臨床実習者講習会Ⅱ期 講義担当 5. 山梨大学教育人間科学部家政教育「保育学」講師
茂手木 明美	講師	1. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (北部幼児教育センター・3ヶ月～8ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全3回) 2. 甲府市福祉部子育て支援室児童育成課 月齢別講座 (中道つどいの広場・北部幼児教育センター8ヶ月～1歳3ヶ月未満児コース)「育児の気がかり」講師 (全2回) 3. 山梨県教育委員会 教員免許状更新講習講師 4. 国立病院機構甲府病院 看護研究指導講師 5. 山梨看護学会学術集会 発表演題査読委員
(成人看護学) 松下 由美子	教授	1. 日本応用心理学会理事 (編集委員会委員) 2. 日本産業カウンセリング学会理事 (倫理委員会委員) 3. 日本慢性看護学会評議員 (専任査読委員) 4. 日本看護研究学会評議員 (専任査読委員) 5. 職場の心理的・制度的側面の改善方法に関する調査研究委員会委員 (平成21年度厚生労働省委託事業・中央労働災害防止協会中央快適職場推進センター) 6. 日本キャリア・コンサルタント技能検定委員 7. 日本キャリア教育学会関東地区支部部会幹部 8. 山梨県社会福祉事業団理事・評議員 9. 山梨県医療審議会委員 10. 山梨県看護協会認定看護管理制度認定委員 11. 山梨看護学会理事 12. 山梨医療安全研究会会長 13. 山梨県看護協会認定看護管理者ファーストレベル講師 14. 研究倫理—質的研究の進め方と倫理的配慮—, 日本産業カウンセリング学会第14回大会研修会講師 (日本産業カウンセリング学会第14回大会論文集, 22), 2009.8.28-30, 東京 15. 医療現場とリスクマネジメント, 日本応用心理学会第76回大会, 大会企画ワークショップ (本応用心理学会第76回大会発表論文集, 8), 2009.9.12-13, 福岡
遠藤 みどり	教授	1. 日本クリティカルケア看護学会編集委員・専任査読委員 2. 山梨術後疼痛管理研究会代表

氏名	職位	社会的活動
梶原 睦子	教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 山梨県ストーマ研究会幹事</li> <li>4. 山梨県立精神保健福祉センター倫理審査委員</li> <li>5. 山梨県医療機関等就業環境改善アドバイザー</li> <li>6. 看護質的統合法（N-KJ）研究会世話人</li> <li>7. 山梨看護協会学会委員会委員長</li> <li>8. 日本集中治療医学会看護部会 全国 ICU 鎮痛・鎮静調査メンバー</li> <li>9. 第37回日本集中治療医学会学術集会 教育セミナー23～急性期術後疼痛管理におけるPCA～演者(2010.3：広島)</li> </ul>
渡辺 かづみ	准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 「排泄は恥ずかしいかー排泄の心理学」東京慈恵会医科大学 看護学科 第3回公開講座</li> <li>2. 山梨県立大学主催コミュニケーション入門～異なる背景をもつ人々とわかり合うために～「医療者との上手なつきあい方」</li> </ul>
籠持 智恵子	准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨県看護協会 継続教育研修 講師</li> <li>2. 山梨県実習指導者講習会 講師</li> <li>3. 山梨県看護学会 学術集会 座長</li> </ul>
城戸口 親史	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. NPO 法人ジャパンハートクラブ評議委員，東京都（2005.1～）</li> <li>2. 第15回心臓リハビリテーション学会 座長（2009.7）</li> <li>3. 第20回日本看護教育学会査読委員（2010.3）</li> </ul>
山本 奈央	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 日本感染看護学会(評議員・監事)</li> <li>2. 日本災害看護学会ネットワーク委員</li> <li>3. 山梨県医療機関等就業環境改善アドバイザー(山梨県)</li> <li>4. 看護制度委員会委員(山梨県看護協会)</li> <li>5. 安全と信頼の感染管理(山梨県看護協会)</li> <li>6. 看護研究コース(山梨県看護協会)</li> <li>7. 山梨県立大学教員免許更新講習講師</li> <li>8. 山梨県実習指導者講習会講師</li> </ul>
高岸 弘美	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨術後疼痛管理研究会 事務局（2008.4より）</li> <li>2. 教育GPの活動（専門職ワーキングメンバーとして）</li> </ul>
井川 由貴	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第40回 日本看護学会 論文選考委員（成人看護Ⅱ）</li> <li>2. 第24回 日本がん看護学会学術集会 論文査読</li> <li>3. 山梨県実習指導者講習会 講師</li> </ul>
井川 由貴	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨術後疼痛管理研究会 事務局</li> <li>2. 山梨県訪問看護師を対象とした講習「フィジカルアセスメント」</li> <li>3. 高校への出前講座</li> </ul>
(老年看護学) 流石 ゆり子	教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨術後疼痛管理研究会 事務局</li> <li>2. 山梨県訪問看護師を対象とした講習「フィジカルアセスメント」</li> <li>3. 高校への出前講座</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 「日本在宅ケア学会誌」専任査読委員（2005.4～現在）</li> <li>2. 第68回日本公衆衛生学会総会(奈良)座長および優秀演題選考委員</li> <li>3. 山梨県認知症対策推進会議委員（2007.4～現在）</li> <li>4. 南アルプス市地域密着型サービス運営委員会（副会長）（2006.4～現在）</li> <li>5. 昭和町地域密着型運営委員（2008.4～現在）</li> <li>6. 昭和町地域包括支援センター運営協議会委員（2008.4～現在）</li> <li>7. 山梨県総合交通構想推進協議会委員（2004～現在）</li> <li>8. 県民コミュニティーカレッジリカレント講座 広域ベース講座「QOLの向上で今を生きぬく」企画委員</li> <li>9. 県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座 第1回「QOLの向上で今を生きぬく」（基調講演）講師</li> <li>10. 県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座 第3回「要介護状態にある高齢者のQOLを支えるために」（講演会）講師</li> <li>11. 県認知症介護実践研修（実践リーダー）研修「家族支援の方策」講師（2005.7～現在）</li> </ul>

氏名	職位	社会的活動
渡邊 裕子	准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>12. 県認知症介護（実践者・管理者・開設者）研修「認知症高齢者と家族関係論」講師（2005.7～現在）</li> <li>13. 県認知症介護（実践者・管理者・開設者）研修「ケースカンファレンスの持ち方」講師（2005.9～現在）</li> <li>14. 山梨県看護協会訪問看護師養成研修会（訪問看護研修ステップⅠ）「在宅における面接技術の基本・面接の実際」講師（1995～現在）</li> <li>15. 県看護協会訪問看護師養成研修会（訪問看護研修ステップⅠ）「認知症の看護」講師（2008.9～現在）</li> <li>16. 山梨ことぶき勸学院甲府学園「異世代間交流事業（講座名 若者との交流）」講師（2006.6～現在）</li> <li>17. 笛吹市介護支援専門員研修会「高齢者への理解を深める③：認知症の理解とケア」講師</li> <li>18. 山梨県福祉保健部 臨床実習指導者講習会「老年看護学の実習と教育」講師（2008～現在）</li> </ul>
河野 佳乃	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 日本適応看護理論研究会 事務局長（2006.11～現在）</li> <li>2. 山角病院 看護記録及び看護研究指導（2009.6～2010.3）</li> <li>3. 山角病院 看護師研修「看護が見える記録」講師（2009.7.16）</li> <li>4. 山角病院 看護師研修「認知症の理解と看護①」講師（2009.8.20）</li> <li>5. 山角病院 看護師研修「認知症の理解と看護②」講師（2009.9.17）</li> <li>6. 身延山病院 看護師研修「看護がみえる記録」講師（2009.10.15）</li> <li>7. 山梨民医連 1年目看護師研修「ケアにつなぐ老年期のフィジカルアセスメント」講師（2009.10.31）</li> <li>8. 県民コミュニティレッジ リアル講座（第3回）コーディネーター（2009.10.15）</li> <li>9. 山梨看護学会学術集会「第Ⅲ群（予防ケアの試み）」座長（2009.12.5）</li> <li>10. 笛吹市地域包括支援センター 介護支援専門員研修「高齢者への理解を深める①」講師（2009.12.15）</li> <li>11. 笛吹市地域包括支援センター 介護支援専門員研修「高齢者への理解を深める②」講師（2010.1.14）</li> <li>12. 山梨県臨床指導者講習会（「実習指導計画作成」演習指導）講師（2010.1.20～29）</li> <li>13. 山角病院 看護師研修「Let's Try!! 看護研究」講師（2010.3.23）</li> <li>14. 松本短期大学「疾病・治療論各論Ⅰ（脳神経疾患）」非常勤講師（2009.6.11～7.23 全7コマ）</li> <li>15. 松本短期大学「癒しと看護」非常勤講師（2009.12.18）</li> <li>16. 松本短期大学「看護師国家試験対策特別講義－老年看護学・脳神経疾患」講師（2010.2.2）</li> </ul>
小山 尚美	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 山梨県ことぶき勸学院甲府学園「異世代間交流事業（講座名 若者との交流）」講師（2006.6～現在）</li> <li>2. 甲府昭和高等学校 看護系進路希望者への説明会 講師（2009.7.15）</li> <li>3. 山梨県立介護実習普及センター高齢者疑似体験指導者養成研修</li> </ul>

氏名	職位	社会的活動
(看護管理学) 田中 彰子	教授	<p>講師 (2008～現在)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本臨床看護マネジメント学会理事</li> <li>2. 日本臨床マネジメント学会神奈川県地方会理事・副会長 (～2009.8)</li> <li>3. 日本感染看護学会評議員</li> <li>4. 日本看護協会認定看護管理者認定実行委員会委員</li> <li>5. 山梨県認定看護管理者教育運営委員会委員 (2009.9～)</li> <li>6. 第14回日本看護管理学会企画委員</li> <li>7. 学校法人北里研究所評議員 (～2009.8)</li> <li>8. 北里大学看護実践教育・研究センター研究部門長 (～2009.8)</li> <li>9. 北里大学看護学部前期修士課程非常勤講師</li> <li>10. 神奈川県保健福祉大学看護実践教育センター非常勤講師</li> <li>11. 相模原看護専門学校非常勤講師</li> <li>12. 老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進費等補助金)「要介護認定における認定調査員用テキストの改訂に伴う影響評価のための調査研究事業 (研究受託: 病院管理研究協会)」Eラーニング問題作成協力員</li> <li>13. 看護必要度評価者研修「基礎コース」, 全国自治体病院主催研, 2009.4.11.</li> <li>14. 看護必要度評価者研修「上級コース」, 全国自治体病院主催研修 2009.4.25, 5.9.</li> <li>15. 看護必要度の精度管理, 神奈川県看護協会, 2009.6.29.</li> <li>16. 看護サービス提供論「サービスの質管理」, 看護管理者ファーストレベル研修, 神奈川県看護実践センター, 2009.7.9.</li> <li>17. 人的資源活用論「看護人事・労務管理Ⅰ」, セカンドレベル研修, 山梨県看護協会, 2009.8.8.</li> <li>18. 看護必要度評価項目の考え方と評価方法, 東京都ナースプラザ, 2009.8.13.</li> <li>19. 人的資源活用論「看護人事・労務管理Ⅱ」, セカンドレベル研修, 山梨県看護協会, 2009.8.29.</li> <li>20. 看護必要度評価項目の考え方と評価方法, 島根県看護協会, 2009.10.18.</li> <li>21. 看護必要度評価者, 院内研修指導者研修, 宮城県看護協, 2009.10.24.</li> <li>22. 看護組織と看護サービスの提供—品質管理と課題—, 一橋大学国際・公共政策大学院, 2009.10.30.</li> <li>23. 看護の探求 (看護管理), 相模原看護専門学校, 2009.12.4.</li> <li>24. 看護サービス提供論「サービスの質管理」, ファーストレベル研修 (教員養成コース) 神奈川県看護実践センター, 2009.12.10.</li> <li>25. トップマネジメントの課題, 北里大学看護学部前期修士課程, 2010.3.4.</li> <li>26. 看護必要度の院内教育と教材づくり, 和歌山県立医科大学附属病院, 2010.3.15.</li> </ol>
真下 綾子	講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本医療マネジメント学会 評議員</li> <li>2. 日本看護管理学会 看護の適正評価に関する検討委員</li> <li>3. 山梨県就業環境アドバイザー①武川病院②回生堂病院</li> </ol>
(看護教育学) 吉田 文子	准教授	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. FD研修会講師, 教育講演: 新しい看護技術教育への提言 (教授法、GPA). 京都中央看護保健専門学校 (京都府), 2009.6</li> <li>2. 教員研修会講師, 教育講演: 基礎看護技術の教授法の工夫—発想の転換—. さいたま市立高等看護学院 (埼玉県), 2009.8</li> <li>3. 平成21年度 看護教育施設部会研修会 (全国) 講師, 教育講演: 看護実践力の育成—発想の転換—. 全国自治体病院協議会 (東京都), 2009.8</li> <li>4. 平成21年度 臨床指導者研修会 (全国) 講師, 教育講演: 看護実</li> </ol>

氏名	職位	社会的活動
吉澤 千登勢	講師	<p>践力の育成－発想の転換－. 全国自治体病院協議会（東京都），2009.9</p> <p>5. 平成 21 年度 専任教員等再教育研修会講師，教育講演：看護実践能力の育成に向けた発想の転換－基礎看護技術の教授法. 茨城県保健福祉部（茨城県），2009.9</p> <p>6. 平成 21 年度 副学校長・教務主任会講師，教育講演：看護実践力に向けた発想の転換－基礎看護技術の教授方法. 日本看護学校協議会（東京都），2009.12</p> <p>7. 山梨県実習指導者講習会講師，担当講義「看護教育の目的と方法①、②、③」「看護教育課程の意義・目的」. 山梨県福祉保健部（山梨県），2009.9</p> <p>1. 看護師職能集会，講演，講師，テーマ「いまだからこそ，看護倫理とは…」，2009.6，山梨県看護協会.</p> <p>2. 「山梨県実習指導者講習会」講師，テーマ「看護倫理」，2009.7.</p> <p>3. 富士吉田市立病院，看護職員研修会，講師，テーマ「いまだからこそ，看護倫理とは」，2009.9，富士吉田市立病院.</p> <p>4. 質の高い大学教育推進プログラム（文部科学省 教育 GP）「学際統合型専門職連携教育開発プログラム」執行部委員・専門職連携ワーキングサブリーダー，2008～2010 年度.</p>
(外国語) 杉田 由仁	准教授	<p>1. 関東甲信越英語教育学会 紀要編集委員会 副委員長・査読委員</p> <p>2. 関東甲信越英語教育学会・埼玉研究大会実行委員</p> <p>3. 山梨県学力向上推進協議会委員</p> <p>4. 山梨大学附属小学校・学校評議員</p>
長坂 香織	准教授	<p>1. 市民団体「やまなし国際保健支援ネットワーク」事務局長</p> <p>2. (財)山梨国際交流協会発行 6ヶ国語版「緊急ガイドブック妊娠・出産ガイド」企画・作成および英文校正</p> <p>3. やまなしライフサポート実行委員</p>

## 2) 公開講座実施状況

年度	演題	講師	日時
21	新型インフルエンザの正しい知識と予防方法	山梨県福祉保健部 中北保健福祉事務所 所長 古屋 好美	11月7日

## 3) 県民コミュニティカレッジ（本学部の参加状況）

年度	演題	講師	日時
21	広域ベース講座 第1回「QOLの向上で今を生き抜く」	山梨県立大学 看護学部 流石 ゆり子	10月3日
	広域ベース講座 第3回「要介護状態にある高齢者のQOLを支えるために」	山梨県立大学 看護学部 流石 ゆり子	10月17日
	地域ベース講座 第3回「医療者との上手なつきあい方」	山梨県立大学 看護学部 梶原 睦子	10月24日

## 4) 図書館の利用状況

年度	貸出件数	貸出冊数	入館者数	調査・ 相談件数	文献複写 依頼件数	学外図書利用 カード登録者数
21	6,965	14,685	71,779	1,532	586	408

## 6 研究業績一覧表

### <看護関連科学>

#### 著書

- 1) 林正健二：山内豊明編，ナーシング・グラフィカ③病態生理学第2版，メディカ出版，p281-285，p286-288，p289-291，p292-295，2010.1.
- 2) 小田切陽一，飯島純夫，小山勝弘，石原逸子：新版生活健康科学，三共出版，p1-62，p105-116，2010.3.

#### 翻訳

- 1) 林正健二，小田切陽一，武田多一，浅見一羊，武田裕子訳：人体の構造と機能第3版，医学書院，p459-506，p507-532，p533-569，2010.3.

#### 原著・論文

- 1) 流石ゆり子，小山尚美，村松照美，郷洋子，林正健二，萩原理恵子，小野興子，横山貴美子，大原恵，戸倉由紀：高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発研修会の評価—A 町高齢者施設での認知症高齢者との『ふれ合い体験』を組み入れて—，山梨県立大学看護学部紀要，12，29-42，2010.3.23.
- 2) 小田切陽一，内田博之，市川敏美，近藤直司：山梨県の自殺率と人口・世帯，産業・経済および医療・福祉要因に関する生態学的研究，山梨県立大学看護学部紀要12，1-8，2010.
- 3) 文珠紀久野，宮林郁子：国内暴動時の女性に対する暴力，聖マリア学院大学紀要，2009.
- 4) 市川敏美，近藤直司，小野茂，今村亨，小田切陽一：自殺予防対策に向けたこころの健康に関する調査，平成21年度自殺対策・研究報告書 山梨県精神保健福祉センター研究紀要，1-37，2010.
- 5) Ma Q, Ono-Kihara M, Cong L, Xu G, Pan X, Zamani S, Ravari SM, Zhang D, Homma T, Kihara M. : Early initiation of sexual activity : a risk factor for sexually transmitted diseases, HIV infection, and unwanted pregnancy among university students in China. BMC Public Health. 2009 Apr 22; 9 : 111.

#### 学会報告

- 1) 秦野環・文珠紀久野・宮林郁子：国内暴動時の女性に対する暴力—ケニア選挙後暴動時の状況，予防策構築に向けての取り組み(第1報)，第17回多文化間精神医学会，2010.3.
- 2) 中村真由美，内田博之，小田切陽一：高齢者の平均自立期間と当該世代の中年期における生活習慣病による損失寿命との関連，第68回日本公衆衛生学会総会，2009.
- 3) 小田切陽一，内田博之：山梨県の自殺率と人口・社会要因との関連に関する生態学的研究，第68回日本公衆衛生学会総会，2009.
- 4) 内田博之，小田切陽一：クラスター分析による都道府県別自殺死亡の年齢・時代・コホート影響の類型化，第68回日本公衆衛生学会，2009.
- 5) 内田博之，渡邊真代，内記麻帆，大竹一男，小田切陽一，小林順：わが国の男児出生割合の動向における年齢・時代・コホートの効果，第53回日本薬学会関東支部会，2009.
- 6) 本間隆之，日高庸晴，木村博和：インターネット利用MSMの行動疫学調査REACH Online 2008(第1報)性感染症罹患患者の特性(会議録)，日本エイズ学会誌11巻4号 Page429，2009.11.
- 7) 本間隆之，日高庸晴，木村博和：インターネット利用MSMの行動疫学調査REACH Online 2008(第2報)性感染症罹患患者の特性(会議録)，日本エイズ学会誌11巻4号 Page429，2009.11.
- 8) 本間隆之：第5回性教育・性感染症研究会 シンポジスト.

#### その他

- 1) 林正健二：特集：カリキュラム改正に対応した教育法方I，基礎分野；専門基礎教育とどう結びつける内容とするか，看護教育，50(3)，222-226，2009.
- 2) 文珠紀久野：泌尿器ケア「さまざまな患者さんとのかかわり」連載，メディカ出版，vol.14(4)～(12)，

2009.

- 3) 文珠紀久野：泌尿器ケア「New ナースのためのカウンセリング入門」連載，メディカ出版，vol. 15(1)～(3)，2010.
- 4) 百々雅子：がん患者会，「支えあう会α」通信誌「α通信」気功入門，季刊連載.
- 5) 百々雅子：月間スマートナース「ナースの心と体を元気にする かんたん気功レッスン」連載，メディカ出版，1月号～12月号.
- 6) 百々雅子：「父の介護をめぐる家族の思い」月刊『訪問看護と介護』医学書院，Vol. 14 No. 6，2009.
- 7) 滝沢美津子，百々雅子，萩原結花，他1名：女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究—上野原市・甲府市の70歳以上の女性に関する実態調査—，山梨県立大学地域研究交流センター報告書，2010.
- 8) 百々雅子・長坂香織：多文化共生における中国人医療・福祉に関する問題，大学と地域の連携による多文化共生推進プロジェクト，山梨県立大学地域研究センター，2009年度研究報告書，p. 24-p. 37，2010.
- 9) 伏見正江，百々雅子，萩原結花，他4名：森の力を活かした出産のヘルスプロモーション研究—マタニティ森林療法の実践から—第1報—，平成21年度山梨県立大学共同研究費助成研究成果報告書，2010.

#### <基礎看護学>

##### 著書

- 1) 松下由美子，杉山良子，小林美雪：ナーシンググラフィカ EX『医療安全』メディカ出版，監修および分担，校正.
- 2) 奥津康祐，小林美雪，松下由美子，笠井英美：医学書院『看護管理』第20巻第2号「実験下での看護師の注射業務の水準（安全確認行為の実施状況）の検証」分担執筆.

##### 原著・論文

- 1) 井出久美，小田切由美子，福島吉乃，小林たつ子：肺炎をくり返しやすい高齢者の在宅介護を躊躇する患者家族への看護介入の検討—渡辺式家族アセスメントモデルを用いた分析—，日本看護学会論文集，老年看護40号 p15-17，2010. 3.
- 2) 中橋淳子：がん性疼痛コントロールに関する知識・態度・看護実践についての実態調査（第1報）—一般病院・大学病院・がん専門病院・緩和ケア病棟（ホスピス）の比較検討から—，日本がん看護学会誌，23(3)，33-41，2009.

##### 学会報告

- 1) 小林たつ子，武田正之，荒木勇雄，芳山充晴：高齢者夜間頻尿に対して，足浴は夜間尿量，夜間膀胱容量と睡眠障害を改善する—クロスオーバーデザインによるランダム化比較試験—，第16回日本排尿機能学会，総会賞候補57題中6題に採択，2009.9.12.
- 2) 小林たつ子，吉田文子，河野由乃，簗持知恵子，中橋淳子，大久保ひろ美，松下由美子：臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題，第3回看護教育研究学会学術集会，2009.10.3.
- 3) 大久保ひろ美，清水恵子，村松照美，萩原結花，簗持知恵子，小林たつ子，吉田文子，河野由乃，松下由美子：看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—，第17回学術集会 講演集，山梨看護学会誌，2009.12.15.
- 4) 奥津康祐，松下由美子，小林美雪：実験下での看護師の注射業務の水準(安全確認行為の実施状況)の検証，日本看護研究学会雑誌32巻3号 p321，2009.8.
- 6) 小林美雪，松下由美子，城戸口親史，笠井英美，藤森玲子，大石操：一般的な病院の看護師の日常業務を再現した実験下での事故発生要因の明確化，日本看護学会「看護管理」抄録集，p193，2009.
- 7) 笠井英美，戸井球美子，松下由美子，小林美雪：メーリングリスト活用による地域ネットワークの構築，医療の質・安全学会誌，p184，2009.

- 8) 巴山玉蓮, 尾崎フサ子, 佐々木かほる, 鶴田早苗, 川崎久子, 小林美雪: 潜在看護師の職場復帰支援の促進を目指して, 日本看護管理学会誌インフォメーションエキスチェンジ, p195, 2009. 8.
- 9) 小林美雪, 嶋森好子: 中小医療機関の規模や特徴に応じた医療安全研修の検討～医療安全研修参加者への質問紙による実態調査, 日本看護管理学会誌, 2009. 8.
- 10) 小林美雪, 嶋森好子: 平成 19 年度厚生労働科学研究補助金による特別研究事業「行政処分を受けた看護師等に対する再教育プログラムの作成に関する研究, 日本看護管理学会誌, インフォメーションエキスチェンジ, p187, 2009. 8.
- 11) 中橋淳子: がん性疼痛コントロールに対する看護師の態度と実践の関連—一般病院・大学病院・がん専門病院・緩和ケア病棟の質問紙調査から—, 第 24 回日本がん看護学会学術集会, 94, 2010.

#### その他

- 1) 小林たつ子: 放射線治療後 30 数年経過して発症した膀胱直腸腫瘍 2 例へのかかわり, Urological Nursing「臨床研究投稿サポートグループ」14(9), p108-110, 2009. 9.
- 2) 小林たつ子: 回腸導管造設後, スキントラブルを起こした一症例を振り返って—退院後のストーマケアを考える—Urological Nursing「臨床研究投稿サポートグループ」14(11), p108-110, 2009. 11.
- 3) 小林たつ子: 足浴は高齢者夜間頻尿症状を改善す, Urological Nursing「泌尿器科 最新トピックス」15(3), p46, 2010. 3.
- 4) 小林たつ子: 高齢者夜間頻尿に対して足浴は夜間尿量・夜間膀胱容量と睡眠障害を改善する—クロスオーバーデザインによるランダム化比較試験—, K-ネットカンファレンス講演, 2009. 2. 4.
- 5) 小林たつ子, 中橋淳子, 五味千帆, 立石ゆか, 溝口孝美, 近藤聡彦: 挑戦的萌芽研究看護過程におけるアセスメントの空洞化現象に対する教育プログラムの開発, 科研費申請.
- 6) 小林たつ子, 中橋淳子, 立石ゆか, 佐藤いずみ, 河西恵美, 岡宏美, 五味千帆, 井口久美子: 新卒者と臨床経験 5 年以上の看護師アセスメントから看護診断に至る思考過程の比較—グループインタビューからの内容分析より—, 平成 21 年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2010. 3.
- 7) 細田明子, 小林たつ子: 手術室における教育体制の現状と課題—リアリティショック反応の苦痛因子を基にしたインタビューから, オペナーシング 22 巻 10 号 Page1112-1117, 2009. 10.
- 8) 嶋森好子, 小林美雪, 福永敏香, 鮎澤純子, 長尾能雅: 「医療機関の規模や特徴に応じた患者安全のための効果的な職員研修カリキュラムの作成と実際の活用と普及」報告書, 厚生労働科学研究費補助金, 2010. 3.
- 9) 永池京子, 佐々木久美子, 門谷久美子, 小林美雪: 診療関連死調査人材育成班, 分担研究「調整看護師の業務マニュアル案作成」報告書, 厚生労働科学研究費補助金, 2010. 3.
- 10) 伊藤健次, 森川三郎, 小林美雪, 仲沢富枝, 杉山由香里, 小川純, 竹内博昭, 渡辺邦夫: 動作解析ソフトウェアを活用した介護・看護・リハビリ分野に共通する動作の分析, 地域研究交流センター共同研究, 2010. 3.

#### <地域看護学>

##### 著書

- 1) 佐藤悦子: 保健師業務要覧, 第 9 章 難病対策と在宅ケア, 日本看護協会出版会, p480-491, 2010. 2.

##### 原著・論文

- 1) 村松照美, 郷洋子他: 地域における成人の運動継続課程に影響する要因—運動継続者の語りを通して—, 日本地域看護学会誌, 12(1), 87-94, 2009.
- 2) 望月宗一郎, 小澤結香, 村松照美他: 退院調整に携わる看護師と医療ソーシャルワーカーの業務に対する認識とストレス対処能力 SOC との関連—介護療養型医療施設に焦点を当てて—, 山梨大学看護学会誌, 8(2), 21-29, 2010.
- 3) 流石ゆり子, 小山尚美, 村松照美, 郷洋子他: 高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発研修会の評価—A 町高齢者施設での認知症高齢者との『ふれ合い体験』を組み入れて—, 山梨県立大

学看護学部紀要, 12(1), 29-41, 2010.

- 4) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美他: 看護実践能力向上をめざした卒業時看護技術演習の取り組み—「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 12(1), 43-52, 2010.
- 5) 望月宗一郎, 茂木美奈子, 飯島純夫: A 県内訪問看護師の職務満足感とバーンアウトに関する一考察, 山梨大学看護学会誌, 8 (1), 9-14, 2009.

#### 学会報告

- 1) 村松裕子, 泉宗美恵, 望月宗一郎, 佐藤悦子他: 継続看護に関連する要因の検討—異なる組織で機能する看護職間の理解に焦点をあてて—, 第 40 回日本看護学会論文集 (地域看護), 77, 2009. 11.
- 2) 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 篠持智恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美他: 臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題, 第 3 回看護教育研究会学会学術集会抄録集, 2009.
- 3) 岡田瑞穂, 齊藤由紀子, 堀内里枝子, 村松照美他: 人間ドック受診者の行動変容に影響する要因の検討—効果的な保健指導を実施するために—, 山梨看護学会誌第 17 回学術集会講演集, 20-21, 2009.
- 4) 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美他: 看護実践能力向上をめざした「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—, 山梨看護学会誌第 17 回学術集会講演集, 22-23, 2009.
- 5) 町田なる美, 村松照美, 望月宗一郎: LCA・DBA を導入した健康教室の効果, 山梨看護学会誌第 17 回学術集会講演集, 64-65, 2009.
- 6) 依田純子, 須田由紀: 認知症高齢者を介護する家族の精神的健康に関連する要因—在宅介護を継続している主介護者を対象として—, 第 14 回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 172, 2009.
- 7) 流石ゆり子, 小山尚美, 村松照美, 郷洋子, 他 7 名: Y 県 A 町の高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発のための研修会の評価—高齢者施設での認知症高齢者との『ふれあい体験』を組み入れて—, 日本老年看護学会第 14 回学術集会 (札幌市), 2009. 9.
- 8) 郷洋子, 村松照美, 流石ゆり子, 小山尚美, 他 7 名: Y 県 A 町の高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発のための研修会の評価—研修会終了後のアンケート調査の結果より—, 第 40 回日本看護学会, 地域看護 (松本市), 2009. 11.
- 9) 望月宗一郎, 泉宗美恵, 須田由紀, 佐藤悦子他: 看護職間の連携がスムーズに図れたと認識している看護職とその職場体制の特徴, 日本地域看護学会第 12 回学術集会講演集, 94, 2009. 8.
- 10) 泉宗美恵, 小林たつ子, 伊藤健次他: 介護老人保健・福祉施設における看護職と介護職の連携に関連する要因の検討, 第 14 回日本在宅ケア学会学術集会, 2010. 1.
- 11) 河野由乃, 佐藤悦子, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎, 小野興子, 神山裕美, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次, 三井知波留, 堀内理恵: 大学と A 市との連携による地域包括支援センター職員研修会の取り組み, 第 2 回日本保健医療福祉連携教育学会, 2009.
- 12) 神山裕美, 小野興子, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次, 佐藤悦子, 河野由乃, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎, 三井知波留, 堀内理恵: 地域包括支援センターをフィールドとした教育プログラムの実施状況と課題, 第 2 回日本保健医療福祉連携教育学会, 2009.
- 13) 望月宗一郎, 小澤結香, 飯島純夫: 介護療養型医療施設 MSW のストレス対処能力 SOC と役割需要との関連, 第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 56 (10), 587, 2009.
- 14) 小澤結香, 望月宗一郎: 介護療養型医療施設の社会的入院に対する医療ソーシャルワーカーの認識, 第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 56 (10), 578, 2009.
- 15) 川口麻美, 伊丹幸子, 望月宗一郎, 高野さは子, 三井文子, 大久保弥生, 松下裕子: 長期療養児の保護者が抱える不安に対する保健所保健師の支援の検討, 第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 56 (10), 289, 2009.
- 16) 小澤結香, 望月宗一郎: 介護療養型医療施設廃止に伴う医療ソーシャルワーカーの認識, 第 7 回山梨社会福祉実践学会ソーシャルワーク実践研究発表会, 2009.

## その他

- 1) 佐藤悦子：山梨県立大学，春季総合講座，2009. 5. 30.
- 2) 佐藤悦子，神山裕美，小野興子，河野由乃，吉澤千登勢他：「質の高い大学教育推進プログラム」学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト—中間報告—，文部科学省 2009. 7.
- 3) 依田純子，佐藤悦子，泉宗美恵，鈴木操，柳原めぐみ，福島しのぶ，榊原治己：認知症高齢者を介護する家族への地域住民ピアサポーターによる支援の有効性，平成 21 年度山梨県立大学共同研究費助成，研究成果報告書，2009.
- 4) 村松照美：日本福祉工学会で看護を考える，日本福祉工学会誌，11(1)，14，2009.
- 5) 山梨県福利給与課，望月宗一郎，村松照美：公立学校における敷地内禁煙を推進するための教育委員会体制の実態，平成 21 年度全国都道府県教育委員会福利厚生主幹部課長協議会関東ブロック必須調査報告書，2009.
- 6) 保坂理恵，柴田昌子，望月宗一郎，村松照美他：小児救急医療体制実態調査，財団法人大同生命厚生事業団地域保健福祉研究助成研究成果報告書，2010.
- 7) 清水恵子，吉田文子，大久保ひろ美，小林たつ子，村松照美他：臨地実習においてポートフォリオを作成・活用した学習成果と今後の課題，平成 21 年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書，2009.
- 8) 吉澤千登勢，須田由紀，三井知波留，堀内理恵，松橋昌代：文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）採択」学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト—中間報告書—，編集担当，山梨県立大学看護学部，山梨県立大学教育GP室，2009. 7.

## <精神看護学>

### 原著・論文

- 1) 清水恵子，共著者：萩原結花，村松照美，大久保ひろ美，小林たつ子，簗持知恵子，吉田文子，河野由乃，松下由美子：看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み～「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況～，山梨県立大学看護学部紀要第 12 巻，p43-52，2010. 3. 1.
- 2) 清水恵子：通院する統合失調症患者の身体活動量とメタボリックシンドローム発症との関係，山梨県立大学看護学部紀要第 12 巻，p19-27，2010.
- 3) 渥美一恵，森川三郎：「物忘れに悩む高齢者」参加授業における「語り」の意味と影響，第 40 回日本看護学会論文集—看護総合—，p60-62，2009.

### 学会報告

- 1) 小林たつ子，河野由乃，吉田文子，簗持知恵子，中橋淳子，大久保ひろ美，清水恵子，村松照美，萩原結花，松下由美子：臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題，第 1 回看護教育研究学会，2009. 10. 3.
- 2) 清水恵子：通院する統合失調症患者のメタボリックシンドローム発症を改善する取り組み，幕張メッセ国際会議場，第 29 回日本看護科学学会学術集会，2009. 11. 28.
- 3) 大久保ひろ美，清水恵子，村松照美，萩原結花，簗持知恵子，小林たつ子，吉田文子，河野由乃，松下由美子：看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—，山梨県看護協会山梨看護学会誌第 17 回学術集会，p22-23，2009. 12. 5.
- 4) 渡邊昇，野澤由美，廣瀬瑞世，稲葉紀子：患者満足度から見た精神障害者の「療養プラン」の共有過程に関する研究，山梨看護学会誌第 17 回学術集会講演集，第 17 巻第 1 号，p54-55，2009. 12.
- 5) 渥美一恵，森川三郎：「物忘れに悩む高齢者」参加授業における「語り」の意味と影響，第 40 回日本看護学会—看護総合—，p37，2009.

## その他

- 1) 清水恵子：看護学部生の看護実践能力向上を目指した取り組みに関する研究，平成 21 年度山梨県立

<母性看護学>

著書

- 1) 池田政子, 伏見正江他: 山梨県立大学やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト編, 「聞き書き」証言集, 伝えたい山梨の女性たち, 山梨県立大学, p103-132, 2010. 3.
- 2) 名取初美: 助産師基礎教育テキスト, 第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 第2章妊娠期の異常とそのケア, 2. 妊娠持続期間の異常 p34-p42, 第3章分娩期の異常とそのケア, 6. 産科手術の介助とケア p161-170, 2009.
- 3) 平田良江: 助産師基礎教育テキスト, 第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 第2章妊娠期の異常とそのケア, 7. 合併症妊娠 p87-p94, 2009.

原著・論文

- 1) 宮内清子, 望月好子, 石田貞代, 佐藤千史: 中高年女性労働者へのリーフレットによる指導介入が抑うつに及ぼす効果, 母性衛生, 50(4), 646-655, 2010.
- 2) 吉川俊恵, 石田貞代: NICU 看護師への搾乳支援に関する効果, 母性衛生, 51(1), 85-91, 2010.
- 3) 滝沢美津子: 「出生」における性別選択と人工妊娠中絶に関する考察--The relation of son preference and religion to induced abortion, The case of South Korea を手がかりとして-ホ・ロゴス  $\delta \lambda \delta \sigma \omicron \xi$ , vol. 12, No. 4, pp8-11.
- 4) 名取初美, 平田良江: 産後1ヶ月・3ヶ月における育児中の母親の孤独感, 山梨母性衛生学会誌, 9-14, 2010. 9.
- 5) Nagai M., Ishida M., Sato J, Hirata Y., & Natorih H.: Characteristics of the control of standing posture during pregnancy, Neuroscience Letters 462, 130-134, 2009.
- 6) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美他6名(平成20年度看護実践力推進プロジェクト): 看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み―「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況―, 山梨県立大学看護学部紀要 第12巻, 43-52, 2010.

学会報告

- 1) Ishida S, Mochizuki Y, Hagihara Y, Sekine R, et. al: Effectiveness of mastication at five or six months after childbirth, The 1st Conference of World Academy of Nursing Science in 2009.
- 2) Mochizuki Y, Sakuma Y, Ishida S, Sato C: Relationship between mothers' smoking and their junior high school students' recognition of health issues, The 1st Conference of World Academy of Nursing Science in 2009.
- 3) Sekine R, Ishida S, Mochizuki Y: Relationship between chief teachers' leadership and general teachers' morale in nursing schools, The 1st Conference of World Academy of Nursing Science in 2009.
- 4) 石田貞代, 望月好子, 萩原結花: 1口30回咀嚼の長期指導の効果―産後4か月から6か月―, 第24回日本助産学会学術集会, p343, 2010. 3.
- 5) 望月好子, 石田貞代: 中学生のボディイメージ及び健康認識の実態と影響要因, 第24回日本助産学会学術集会, p346, 2010. 3.
- 6) 名取初美, 平田良江: 産後1年間の育児中の母親の孤独感の変化, 第50回日本母性衛生学会, p246, 2009. 9.
- 7) 名取初美, 平田良江, 島田啓子: 妊娠中期から後期における正常妊婦と子宮頸管無力症妊婦の会陰腱中の長さの比較, 日本助産学会, p406, 2010. 3.
- 8) 平田良江, 名取初美: 妊娠・出産による身体心理的变化が重心動揺に与える影響, 第50回日本母性衛生学会, p230, 2009. 9.
- 9) 萩原結花, 石田貞代: 「出産・育児準備行動尺度」の妥当性・信頼性, 日本助産学会誌 第24回日

本助産学会学術集会, p337, 2010. 3.

#### その他

- 1) 伏見正江: 安心して生きる力の回復へ, 女性の人権サポート・くろーばーニュース NO. 4, 2010 年 2 月号.
- 2) 伏見正江, 百々雅子, 萩原結花, 山田幸子, 草野香寿恵, 山本栄, 米倉弥生: 森の力を活かした出産のヘルスプロモーション研究〜マタニティ森林療法の実践から〜第一報, 平成 21 年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2010. 3.
- 3) 伏見正江: 思春期のヘルスプロモーション, 山梨県立大学地域研究交流センターニューズレター Vol. 9, 2009. 5.
- 4) 伏見正江: シンポジウムあなたの力になります! DV について考えよう~, 女性の人権サポート・くろーばー・山梨県立男女共同参画推進センター, 2009. 8.
- 5) 伏見正江: 分科会 水と緑を活かす実践〜地域資源を活用したマタニティ森林療法, 「山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム」, 2009. 9.
- 6) 伏見正江, 鈴木因子, 古明地喜代美, 久保川正美, 望月整子: やまなしの女性史を学ぶ公開講座「地域でお産を支えた山梨の助産師たち」, 山梨県立男女共同参画推進センター 2009. 11. 8.
- 7) 伏見正江: 冊子・山梨 DV 被害者支援のための医療機関マニュアル, やまなし女性健康ネットワーク, 2009. 4.
- 8) 伏見正江: 山梨県の看護者 DV 防止啓発カレンダー (2009), やまなし女性健康ネットワーク, 2009. 4.
- 9) 伏見正江: マタニティ森林療法, エフエム甲府「生涯学習の時間」, 2010. 2. 9 放送.
- 10) 伏見正江: DV の連鎖断つ支援を, 朝日新聞, 2009. 11. 28.
- 11) 伏見正江: 正しい性知識出前授業, 朝日新聞, 2010. 3. 16.

#### <小児看護学>

##### 原著論文

- 1) 茂手木明美, 浅川和美, 前橋明: 子どもの規則正しい生活のために心がけていること 幼児をもつ保護者の記述内容の分析, 幼少児健康教育研究, 第 16 巻第 1 号, pp74-79, 2010.

##### 報告・資料

- 1) 清水恵子, 吉田文子, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 村松照美, 簗持知恵子, 渡邊裕子, 萩原結花: 臨地実習においてポートフォリオを作成・活用した学習成果と今後の課題—学部 4 年生 7 名のポートフォリオとアンケートの分析から—, 平成 21 年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, pp2-25, 2010. 3.
- 2) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 簗持知恵子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み—自己課題シートに見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 第 12 巻第 1 号, pp43-52, 2010. 3.

##### 学会報告

- 1) 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 簗持知恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 松下由美子: 臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題, 看護教育研究学会誌, 第 16 巻第 2 号, pp57-58, 2009. 10.
- 2) 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 簗持知恵子, 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題, 山梨看護学会誌, 第 17 巻第 1 号, pp22-23, 2009. 12.
- 3) 茂手木明美, 山縣然太郎, 大山建司: Actigraph を用いた学童期の睡眠パターンの実態, 第 56 回日本小児保健学会講演集, pp195, 2009. 10.

## <成人看護学>

### 原著・論文

- 1) 小林美雪, 松下由美子, 笠井英美, 藤森玲子, 大石操, 城戸口親史: 看護師の注射業務における安全確認行為に関する実験研究, 第40回日本看護学会論文集—看護管理—, 153-155, 2009.
- 2) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 簗持知恵子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み—「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 12(1), 43-52, 2009.
- 3) 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 小林たつ子, 簗持知恵子, 河野由乃, 大久保ひろ美, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組みと成果, 第39回日本看護学会論文集, 看護教育, 27-29, 2009.
- 4) 渡辺かつみ, 遠藤みどり: 看護学生の救急車同乗実習における学習内容, 日本集中治療医学会誌 16, 213-214, 2009.
- 5) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 簗持知恵子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子 (平成20年度看護実践力推進プロジェクト): 看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み—「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 12(1), 43-52, 2009.

### 学会報告

- 1) 市川美生, 簗持知恵子, 松下由美子: 2型糖尿病患者の足病変予防のためのフットケアの介入による効果の検討, 第3回日本慢性看護学会学術集会 (日本慢性看護学会誌, 3, A10), 2009. 7. 4-5, 東京.
- 2) 武田真弓, 簗持知恵子, 松下由美子: 心筋梗塞患者の回復期から慢性期における「不確かさ」の実態—フォローアップCAG期間に焦点をあてて—, 第3回日本慢性看護学会学術集会 (日本慢性看護学会誌, 3, A15), 2009. 7. 4-5.
- 3) 杉田由仁, 吉田文子, 松下由美子: 学生による授業評価における満足度決定要因—授業改善を効率的に図るFD組織化に向けて—, 第16回大学教育研究フォーラム (発表論文集, 62-63), 2010. 3. 18-19.
- 4) 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 簗持知恵子, 小林たつ子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—, 山梨看護学会第17回学術集会 (山梨看護学会誌, 17(1), 22-23), 2009. 12. 5.
- 5) 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 簗持知恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 松下由美子 (山梨県立大学看護学部看護実践力推進プロジェクト): 臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題, 第2回看護教育研究会総会, 2009. 10. 3.
- 6) 小林美雪, 松下由美子, 笠井英美, 藤森玲子, 大石操, 城戸口親史: 一般的な病院の看護師の日常業務を再現した実験下での事故発生要因の明確化, 第40回日本看護学会看護管理 (第40回日本看護学会抄録集, 193), 2009. 10. 21-22.
- 7) 奥津康祐, 松下由美子, 小林美雪, 城戸口親史, 藤森玲子, 大石操: 実験下での看護師の注射業務の水準 (安全確認行為の実施状況) の検証, 第35回一般社団法人日本看護研究学会学術集会, 2009. 8. 3-4.
- 8) 山本奈央, 遠藤みどり他: 臨床看護師への術後疼痛管理に関する教育プログラムの効果—教育プログラム実前後における看護師の主観的評価の比較から—, 第40回日本看護学会—看護教育—, 2009. 8.
- 9) 管野美代子, 山田三和子, 尾形綾子, 柴崎裕代, 国馬和加, 武田美代子, 織田豊, 平松優雅, 穴沢貞夫, 梶原睦子, 江川安紀子, 酒井省子, 中島伸太郎, 山形哲也, 北川和男, 諏訪勝仁, 羽入千悦子, 大村裕子: 体位によるストーマ状況変化に着目した装具装着法の工夫, 第27回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, p101, 2009.
- 10) 梶原睦子, 管野美代子, 山田三和子, 尾形綾子, 柴崎裕代, 国馬和加, 武田美代子, 織田豊, 平松優雅, 穴沢貞夫: ストーマ閉鎖術語装具装着部位に白斑が出現した症例, 第27回日本ストーマ排泄

リハビリテーション学会, p58, 2009.

- 11) 根本秀美, 高橋知勢子, 梶原睦子: オストメイトののにおいに関する不安内容について, 第 27 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, p107, 2009.
- 12) 梶原睦子: 壮年期ストーマ保有者への心理サポートのために」状況的危機について, 第 27 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, p135, 2009.
- 13) 仲田隆子, 遠藤みどり, 渡辺かづみ: ICU 看護師の深部静脈血栓症予防におけるアセスメントと実践の実態, 第 5 回日本クリティカルケア看護学会誌, 5 : 1 , p. 85, 2009. 6.
- 14) 古屋洋子, 城戸口親史, 岡本知子, 他: Depression during interferon therapy for chronic hepatitis C, Prevalence and risk factors, the Society for Epidemiologic Reserch 2009. 6.
- 15) 古屋洋子, 城戸口親史, 鈴木考太, 他: C 型慢性肝炎患者におけるインターフェロン療法に伴う抑うつ症状悪化の予測要因の検討, 第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録, 265, 2009. 10.
- 16) 城戸口親史, 花輪菊江, 望月ひろ美, 笠原訳子, 他: 准看護師の進学に関する意識調査—進学推進に向けて—, 第 17 回山梨看護学会学術集会, 2010. 12.
- 17) 管又さや香, 杉山千里, 城戸口親史: 急性期リハビリテーションに対する看護師の認識とケアの実際—勉強会前後を振り返って, 日本集中治療学会雑誌 17(Suppl), 432, 2010. 1.
- 18) 山本奈央, 中込洋美: 山梨術後疼痛管理研究会の取り組みと課題, 第 7 回山梨術後疼痛管理研究会フォーラム, 2009. 7. 4.
- 19) 高岸弘美: 喉頭摘出術を受けた術後 6 ヶ月以内の患者における QOL に関連する要因, 第 35 回日本看護研究学会学術集会, 口演, 2009. 8. 4.

その他

- 1) 松下由美子: 応用心理学研究分野における看護学研究の発展のために, 第 75 回大会企画研修会講演記録, 応用心理学研究, 日本応用心理学会, 34(2), 201-208, 2009.
- 2) 木村周, 松下由美子, 緒方一子他 7 名: 職場の心理的・制度的側面の改善方法に関する調査研究委員会報告書, 159-172, 2009.
- 3) 奥津康祐, 松下由美子, 小林美雪, 森本美智子, 城戸口親史, 笠井英美, 藤森玲子, 大石操: 実験下での看護師の注射業務の水準 (安全確認行為の実施状況) の検証—刑事責任の観点から—, 看護管理, 20(2), 142-146, 2010.
- 4) 奥津康祐・小林美雪・笠井英美・松下由美子: 看護の業務拡大と法的責任, 医療安全, 19, 44-47, 2009.
- 5) 渡辺かづみ: 看護師が感じた「何か変」におけるエビデンス, EB Nursing, 9 : 4, 488-492, 2009.
- 6) 清水恵子, 小林たつ子, 村松照美, 簗持知恵子, 吉田文子, 渡邊裕子, 大久保ひろ美, 萩原結花: 本学部生の看護実践能力向上を目指した取り組みに関する報告書, 山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究報告書, 2010.
- 7) 古知里美, 簗持知恵子: 心不全患者の服薬コンプライアンスに関する調査, 呼吸器&循環器ケア, 9(4), 98-103, 2009.

<老年看護学>

原著・論文

- 1) 流石ゆり子, 小山尚美, 村松照美, 郷洋子, 林正健二, 萩原理恵子, 小野興子, 横山貴美子, 大原恵, 戸倉由紀: 高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発研修会の評価—A 町高齢者施設での認知症高齢者との『ふれあい体験』を組み入れて—, 山梨県立大学看護学部紀要, 第 12 巻第 1 号, 29-41, 2010.
- 2) 渡邊裕子, 小山尚美, 流石ゆり子, 河野由乃, 萩原理恵子, 森本清, 水口哲: 地域リーダー高齢者の若者イメージと若者との交流に対する期待感—「看護学生との交流事業」参加前の調査から—, 山梨県立大学看護学部紀要, 第 12 巻第 1 号, 9-18, 2010.
- 3) 古田加代子, 流石ゆり子: 閉じこもり高齢者への支援方法に関する検討—回想法と運動指導による介入を試みて—, 愛知県立大学看護学部紀要, 第 15 巻, 25-32, 2010.

## 学会報告

- 1) 流石ゆり子, 小山尚美, 村松照美, 郷洋子, 萩原理恵子, 森下亜由美, 林正健二, 小野興子, 横山貴美子, 大原恵, 戸倉由紀: Y県A町の高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発のための研修会の評価—高齢者施設での認知症高齢者との『ふれあい体験』を組み入れて—, 日本老年看護学会, 第14回学術集会抄録集(札幌市), 162, 2009.
- 2) 古田加代子, 流石ゆり子: 在宅閉じこもり高齢者の支援方法に関する実践的検討—回想法と運動指導を用いた介入の効果—, 日本老年看護学会, 第14回学術集会抄録集(札幌), 246, 2009.
- 3) 郷洋子, 村松照美, 流石ゆり子, 小山尚美, 林正健二, 萩原理恵子, 森下亜由美, 小野興子, 横山貴美子, 大原恵, 戸倉由紀: Y県A町の高齢者支援組織を対象に実施した認知症ケア啓発のための研修会の評価—研修会終了後のアンケート調査の結果より—, 第14回日本看護学会抄録集 地域看護(松本), 69, 2009.
- 4) 渡邊裕子, 小山尚美, 河野由乃, 萩原理恵子, 流石ゆり子, 森本清, 水口哲: 地域リーダー高齢者の若者イメージと若者との交流に対する期待感—「看護学生との交流事業」参加前の調査から—, 第14回日本看護学会抄録集, 地域看護(松本), 58, 2009.
- 5) 古田加代子, 流石ゆり子: 地域における高齢者の閉じこもり予防のための条件—保健医療福祉従事者の視点から—, 第68回日本公衆衛生学会総会抄録集(奈良), 464, 2009.
- 6) 渡邊裕子, 小山尚美, 河野由乃, 流石ゆり子, 萩原理恵子, 森本清, 水口哲: 地域リーダー高齢者の若者イメージと若者との交流に対する期待感—「看護学生との交流事業」参加前の調査から—, 第40回日本看護学会抄録集—地域看護(松本)—, 58, 2009. 11. 5.
- 7) 嶋崎昌子, 百瀬ちどり, 渡邊裕子, 小林由美, 渡辺千枝子, 浦野理香, 大槻美智子: 地方都市住民の生活状態, 健康状態に関する調査研究(第1報)—A市B地域住民の健康相談活動を通じての検討—, 第40回日本看護学会抄録集—地域看護—, 64, 2009. 11. 5.
- 8) 泉宗美恵, 小林たつ子, 伊藤健次, 渡邊裕子, 小野興子: 介護老人保健・福祉施設における看護職と介護職の連携に関連する要因の検討, 第14回在宅ケア学会講演集, 99, 2010. 1. 23.
- 9) 河野由乃, 佐藤悦子, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎, 小野興子, 神山裕美, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次, 三井知波留, 堀内理恵: 大学とA市との連携による地域包括支援センター職員研修会の取り組み, 第2回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 30, 2009. 10.
- 10) 神山裕美, 小野興子, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次, 佐藤悦子, 河野由乃, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎, 三井知波留, 堀内理恵: 地域包括支援センターをフィールドとした教育プログラムの実施状況と課題, 第2回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 35, 2009. 10.
- 11) 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 旗持知恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩結花, 松下由美子: 臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題, 看護教育研究学会誌 vol. 1 No. 2, 57-58, 2009. 10.
- 12) 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 旗持知恵子, 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—, 山梨看護学会誌 vol. 17 No. 1, 22-23, 2009. 12.

## その他

- 1) 渡邊裕子, 小山尚美, 流石ゆり子, 河野由乃, 萩原理恵子, 中澤緑, 水口哲, 森本清: 看護学生との交流による地域リーダー高齢者の活動への満足度・心理・若者像の変化—「交流事業」参加前後の比較から—, 平成21年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2010.
- 2) 清水恵子, 吉田文子, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 村松照美, 旗持知恵子, 渡邊裕子, 萩原結花: 隣地実習においてポートフォリオを作成・活用した学習成果と今後の課題—学部4年生7名ポートフォリオとアンケートの分析から—, 山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 本学部の看護実践能力向上を目指した取り組みに関する報告書, 2-31, 2010. 3.
- 3) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 旗持知恵子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子, (平成20年度看護実践力推進プロジェクト): 看護実践力向上を目指した卒業時看護技

術演習の取り組み—「自己課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 第12巻, 43-52, 2010.

- 4) 小林たつ子, 河野由乃, 吉田文子, 旗持知恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 松下由美子: 本学部生へのポートフォリオ導入後の実態と今後の課題—本学部生(2・3回生)と教員へのアンケート結果から—, 平成20年度山梨県立大学看護学部共同研究費助成研究成果報告書, 2009.
- 5) 山梨県立大学教育GP執行部: 平成20~22年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」採択 学際統合型専門職連携開発プロジェクト—中間報告書—, 2009.
- 6) 小山尚美: 高齢者の変化を見逃さない! 日常観察の留意点, 臨床老年看護 Vol. 16. No. 3, 30-34, 2009.

#### <看護管理学>

##### 著書

- 1) 國分茂博, 田中彰子: 肝・胆・膵疾患の治療と看護, 南江堂, 2010.
- 2) 有馬志津子, 矢山壮, 三上洋, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子, 大石八重子, 萩原修代: 一般病院に勤務する看護師の禁煙支援の現状と関連要因の検討公衆衛生雑誌(研究報告), 2010.

##### 原著・論文

- 1) 真下綾子: PFI導入による経営環境変化へ対応するために発揮された看護管理者のコンピテンシー, 看護管理学会誌, 13巻2号, 2009.

##### 学会報告

- 1) 千崎美登子, 嶺岸秀子, 佐藤美紀, 児玉美由紀, 久米恵江, 桑名寿美, 岩本純子, 清水裕子, 村田友紀子, 田中彰子: 終末期がん患者の看護に困難感をもつナースへの育成プログラムの開発—M. Newmanの理論に基づく対話の導入—, 第24日本がん看護学会, p196, 2010.
- 2) 田中彰子: 患者の状態変化を簡潔に表す記録の訓練について, 日本臨床看護マネジメント学会, 第1回学術集会, 話題提供, p14, 2010.2.6.
- 3) 真下綾子: 看護実践能力と有害事象発生との関連性, 第13回 日本看護管理学会年次大会, p33.
- 4) 真下綾子: 看護実践能力尺度の開発, 第13回 日本看護管理学会年次大会, p42.
- 5) 真下綾子: 人員配置マネジメントと有害事象発生との関連性および課題, 第13回 日本看護管理学会年次大会, p122.

##### その他

- 1) 田中彰子: データに基づいた看護要員配置とその管理について—KNSから看護必要度の開発にかかわって—, 看護管理増刊号, vol. 19, No. 8 2009, p654-655, 2009.

#### <看護教育学>

##### 原著・論文

- 1) 清水恵子, 萩原結花, 村松照美, 大久保ひろ美, 小林たつ子, 旗持知恵子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み—「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況—, 山梨県立大学看護学部紀要, 43-52, 2009.

##### 学会報告

- 1) Fumiko Yoshida: Effect of teaching strategies utilizing formative assessment. 20 International Nursing Research Congress, Focusing on Evidence-based Practice. Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International. Vancouver in Canada. 13-17, July, 2009.
- 2) 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 旗持知恵子, 中橋淳子, 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 萩原結花, 松下由美子: 臨地実習にポートフォリオの導入を試みた成果と今後の課題, 第3回看護教育研究学会学術集会抄録集, 21-22, 2009.

- 3) 大久保ひろ美, 清水恵子, 村松照美, 荻原結花, 簗持知恵子, 小林たつ子, 吉田文子, 河野由乃, 松下由美子: 看護実践能力向上を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組み—学生の「自己課題シート」に見られた輸液管理演習の学修状況と課題—, 山梨県看護学会抄録集, 22-23, 2009.
- 4) 杉田由仁, 吉田文子, 松下由美子: 学生による授業評価における満足度決定要因—授業改善を効率的に図るFD組織化に向けて, 第16回大学教育研究フォーラム発表論文集, 62-63, 2010.
- 5) 神山裕美, 小野興子, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次 (山梨県立大学人間福祉学部), 佐藤悦子, 河野由乃, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎 (山梨県立大学看護学部), 三井知波留, 堀内理恵 (山梨県立大学教育GP室): 地域包括支援センターをフィールドとした教育プログラムの実施状況と課題, 日本保健医療福祉連携教育学会第2回学術集会抄録集, p35, 2009. 10.
- 6) 河野由乃, 佐藤悦子, 吉澤千登勢, 清水恵子, 須田由紀, 望月宗一郎 (山梨県立大学看護学部), 小野興子, 神山裕美, 大澤準一, 横山貴美子, 伊藤健次 (山梨県立大学人間福祉学部), 三井知波留, 堀内理恵 (山梨県立大学教育GP室): 大学とA市との連携による地域包括支援センター職員研修会の取り組み, 日本保健医療福祉連携教育学会第2回学術集会抄録集, p30, 2009. 10.
- 7) 白鳥さつき, 吉澤千登勢, 松下まゆみ, 広瀬聖子, 仙波美幸: 東日本の都県にある看護師養成所校の専任教員の継続教育における課題と教育ニーズに関する研究, 日本看護学教育学会第19回学術集会講演集, p163, 2009. 9.

#### その他

- 1) 吉澤千登勢, 須田由紀他: 文部科学省, 質の高い教育推進プログラム採択(教育GP)『学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト 中間報告書』, 山梨県立大学(教育GP執行部・編集責任者), 2009. 7.
- 2) 真下綾子, 吉澤千登勢, 工藤真由美, 白鳥孝子: 看護系大学における教員の「教育力」を培うための課題の明確化—看護基礎教育における学士力の獲得に着眼して—(平成21年度山梨県立大学看護学部共同研究助成 成果報告書), 2010. 3.
- 3) 吉田文子: 基礎分野I: 基礎看護技術の教授方法の工夫, 看護教育 Vol. 50(3), 216-219, 医学書院, 2009.
- 4) 吉田文子: なぜ看護教育にGPA制度が必要か—主体的な学習の実現に向けた教育課題への挑戦—, 看護教育 Vol. 50(11), 1002-1006, 医学書院, 2009.
- 5) 吉田文子: 実習お役立ちBOOK2008, 照林社, 2009.

#### <外国語>

##### 原著・論文

- 1) 杉田由仁: The development of a construct-based processing approach to testing: Task-based writing assessment for Japanese learners of English, 学位(博士)論文, 早稲田大学大学院教育学研究科, 2010. 1.
- 2) 杉田由仁: Developing and improving rating scales for a task-based writing performance test, 『日本言語テスト学会紀要』第12号, 85-104, 2009. 10.
- 3) 杉田由仁: The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English, 『環太平洋応用言語学会紀要』第13号(2), 77-103, 2009. 12.
- 4) 杉田由仁: コミュニケーションを志向した教材がライティングにおける不安感に及ぼす効果, 『中部地区英語教育学会紀要』第39号, 189-196, 2010. 2.
- 5) 杉田由仁: How Japanese learners translate from Japanese into English: Consideration on effective sentence-level writing instruction, 『全国英語教育学会紀要(ARELE)』第21号, 41-50, 2010. 3.

##### 学会報告

- 1) 杉田由仁: コミュニケーションを志向した教材がライティングの不安感に及ぼす効果, 第39回中部地区英語教育学会・静岡大会(常葉学園大学), 2009. 6.
- 2) 杉田由仁, 中野美知子: The development and implementation of task-based writing performance

assessment for Japanese learners of English: (1) A pilot experiment, The 14th Conference of PAAL Kyoto, Japan, 2009.8.

- 3) 杉田由仁, 中野美知子: The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (2) How to improve rating scales, The 14th Conference of PAAL Kyoto, Japan, 2009.8.
- 4) 杉田由仁: The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese Learners of English: (3) Main experiment 1, The 14th Conference of PAAL Kyoto, Japan, 2009.8.
- 5) 杉田由仁: The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (4) Main experiment 2, The 14th Conference of PAAL Kyoto, Japan, 2009.8.
- 6) 杉田由仁: The development and implementation of task-based writing performance assessment for Japanese learners of English: (5) Comparison of two main experiments, The 14th Conference of PAAL Kyoto, Japan, 2009.8.
- 7) 杉田由仁: 日本人英語学習者のライティングにおける産出レベル, 全国英語教育学会・鳥取大会 (鳥取大学), 2009.8.

#### その他

- 1) 杉田由仁: 「確かな学力ステップアップ事業」公開研究発表会 (指導・助言), 2009.11, 笛川中学校.
- 2) 杉田由仁: 中学校英語ステップアッププラン, 山梨県教育委員会HP (<http://www.kai-step-up.org/>), 2009.7.
- 3) 杉田由仁: 中学生の文法指導: 4Pアプローチのすすめ, 『STEP英語情報』11・12月号 日本英語検定協会, 2009.11.
- 4) 百々雅子・長坂香織: 多文化共生における外国人医療・福祉に関する問題, 山梨県立大学地域研究センター2009年度研究報告書, 24-37, 2010.

## 7 大学院看護学研究科

### 1) 教育目的

山梨県立大学大学院看護学研究科は、看護学の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与するとともに、高度専門職業人、看護学教育者および看護学研究者等の人材を育成し、もって人々の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。

#### ①高度専門職業人の育成

ますます高度化・専門化する医療や在宅ケアなど、看護が機能する状況が多様化・複雑化するなかで、それらに的確に対応するためには、看護職にも専門的な知識や技術に加えて高度な判断力・応用能力及び調整能力が必要とされており、このような専門的看護能力を持つ人材の養成が求められている。

山梨県においても、高度専門医療をおこなう医療機関の整備にともない、各地域の基幹病院等において、特定の専門領域のスペシャリスト養成を望む声が高まっている。また、高齢化の進展に伴い地域における高齢者に対する看護の役割が増大していることから、市町村や福祉施設等からも優れた調整能力を有する看護職者の養成が求められている。

このため、看護の特定分野における卓越した看護実践能力と総合的な調整能力を有する高度専門職業人(専門看護師(CNS)など)を育成する。

※ 平成15年度に感染看護、平成18年度には成人(慢性期)看護、クリティカルケア看護の専門分野が専門看護師教育課程として認可された。以後、日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程の認定申請を順次行う予定である。

#### ②看護学教育者の育成

看護学の教育水準の向上には、専門領域に卓越した知識、技術を有し、かつ看護実践と看護学の発展に主体的、創造的に関わる資質をもった人材が不可欠である。

教育基盤としての十分な資質をもった看護学教育者の育成は、次世代の看護学の発展の資源となるもので大学院教育において実施されるものである。特に県内の地域医療の場に求められる看護職者の教育にあたっては、本県の文化、習慣、県民性など地域の特性を十分理解している教育者の育成が望まれている。

これらの要請に応えるために看護学教育者を育成する。

#### ③看護学研究者の育成

看護実践に必要とされる知識や技術は日進月歩であり、科学的な理論に裏打ちされたこれらの知識や技術は、不断の研究の推進によって保証され、強化されうるものである。

また、看護理論の確立、理論体系の構築を見据えた研究活動を自立して推進しうる能力は大学院教育を通して養われるものであり、看護実践にかかわる研究や、地域の医療・健康問題と密着した研究などの成果は、将来にわたり継続的に県民の保健・医療・福祉に寄与するものである。

これらの要請に応えるために看護学における研究能力を有する看護職者を育成する。

## 2) 教育課程

### ①専門分野

本研究科は、看護実践の各専門領域のスペシャリストを育成するため、「地域看護学」、「精神看護学」、「老年看護学」、「慢性期看護学」、「急性期看護学」、「女性看護学」、「小児看護学」、「感染看護学」、「がん看護学」、「看護管理学」の専門分野を置き、高度な実践能力と実践の場における研究能力を養うよう教育課程を編成する。

また、看護学の教育研究者を育成するため、「基礎看護学」の専門分野を置き、看護学の理論とその構築についての理解を深め、教育と研究の能力を養うように教育課程を編成する。

各専門分野の人材育成のねらいは、次に掲げるとおりである。

### 基礎看護学

看護実践の理論的な基礎を構築するため、看護理論を看護現象とのつながりにおいて体系的に理解し、さらに保健・医療・福祉の分野における看護の独自性を明確にし、これによって看護教育の水準の向上に寄与し、研究を推進することができる看護職者の育成を目指す。

### 地域看護学

地域で生活するあらゆるライフステージにある個人、家族、集団に対し、健康ニーズに応じて根拠に基づいた看護技術の提供等の支援を実施するとともに、地域ケアの充実を図るためのプログラム開発やシステムの構築を推進することのできる高度専門職業人の育成を目指す。

### 精神看護学

精神科領域における高度の看護専門職者として、入院施設において治療・看護を受けている対象に精神科専門療法等を実践し、さらにメンタルヘルス上の問題を持ちながら在宅で療養している対象、及びその在宅療養を支えている家族も含めて、生活の質（QOL）の向上を目指した支援体制を、他職種との協働のもとで推進できる人材の育成を目指す。

### 老年看護学

疾病構造の変化や高齢化の急速な進展により、高齢者の療養・生活の場が多様化し、これに伴い老年看護活動の場も拡大している。地域で生活する健康高齢者については、健康の保持・増進が重要であり、また、日常生活上の障害を持つ住宅・施設高齢者とその家族については、生活の質（QOL）の向上に向けての支援が必要である。これらのニーズに応えられる卓越した看護実践能力と、コンサルテーション及びコーディネーションの能力を有する人材を育成することを目指す。

### 慢性期看護学

人口の高齢化が急速に進む中で、慢性病を持つ人々も急増している。慢性病が個人及び家族に及ぼす影響とそれに対する反応を理解し、生活の質（QOL）の向上という視点を重視した看護援助を実践することのできる人材を育成することを目指す。

## 急性期看護学

臨床において医療技術の革新や高度化に伴い、重症患者や高齢者に対して手術療法をはじめとする高度な侵襲治療処置が施行される状況にある。短期間に侵襲的治療等を受け生命危機的な状況にある患者とその家族の健康問題を的確に判断し、生命維持・回復及び生活の質（QOL）の向上を目指した高度な臨床実践能力を有する人材の育成を目指す。

## 女性看護学

近年、ライフスタイルの変化や医療技術の進歩に伴い、高齢者の出産やシングルマザー、高度な医療介入が増加し、周産期にある母子への質の高い看護の提供が求められている。また、性と生殖に関する価値観が多様化する中で、女性のライフサイクル全般にわたる健康問題への適切な看護ケア能力が必要とされている。そこで、これらのニーズに適切に対応できる人材を育成することを目指す。

## 小児看護学

複雑な健康問題をもつ子どもと家族を包括的にアセスメントする能力及び小児の看護ケア向上のための教育ならびに研究能力を備え、病院・施設・地域の場において、コンサルテーション及びコーディネーションを含めた高度な看護実践能力を有する人材を目指す。

## 感染看護学

新興・再興感染症の出現、院内感染の問題に対応し、広く地域及び施設の看護活動において、感染症者及び易感染者のケア、感染管理並びに感染対策の推進に専門的に携わることのできる高度な看護実践者の育成を目指す。

## がん看護学

がん看護に関する最新で高度な知識・技術を用い、根拠に基づいたケア実践で、がんの予防、がん治療と継続ケア、リハビリテーションケア、緩和ケアが提供できる高度な能力を育成する。特に臨床において、がん看護のスペシャリストとしての役割がとれる人材の育成を目指す。

## 看護管理学

保健・医療・福祉の変化に応じて看護サービスの質を保証するためのヘルスケアシステムを改革・創造できる高度な看護実践者の育成を目指す。また、職位に関わらずリーダーシップスキル、マネジメントスキルを発揮して、看護職者に求められている、組織の掲げる様々なレベルの目標を達成できる人材の育成を目指す。

②開講予定科目及び専門分野履修モデル

授 業 科 目		単位数		専門分野別履修モデル（修得単位数）								履修方法及び終了要件
		配当 年次	必修	選択	地域 看護学	老年 看護学	慢性 期看護学	急性 期看護学	女性 看護学	感染 看護学	がん 看護学	
共 通 科 目	看護学研究法	1	2		2	2	2	2	2	2	2	2
	理論看護学	1・2		2	2	2	2	2	2	2	2	
	看護政策学	1・2		2	2	2	2	2	2	2	2	
	看護倫理学	1・2		2	2	2	2	2	2	2	2	
	看護継続教育論	1・2		2	2		2		2	2		
	看護管理論	1・2		2					2		2	
	療育相談論	1・2		2								
	地域環境保健論	1・2		2						2		
病いの社会的現象論	1		2									
地 域 看 護 学	地域看護学特論Ⅰ（家族ケア論）	1		2	2							
	地域看護学特論Ⅱ（保健情報学） （地域看護学研究法）	1		2	2							
	地域看護学特論Ⅲ（行政地域看護学）	1		2	2							
	地域看護学特論Ⅳ（在宅ケア看護学）	1		2	2							
	地域看護学演習	1		4	4							
	地域看護学実習	2		6	6							
	地域看護学特別研究	2		4	4							
老 年 看 護 学	老年看護学特論Ⅰ（高齢者健康生活評価論）	1		2	2							
	老年看護学特論Ⅱ（高齢者・家族ケア論）	1		2	2							
	老年看護学特論Ⅲ（高齢者サポートシステム論）	1		2	2							
	老年看護学特論Ⅳ（高齢者保健福祉政策論）	1		2	2							
	老年看護学演習	1		4	4							
	老年看護学実習	2		6	6							
	老年看護学特別研究	2		4	4							
慢 性 期 看 護 学	慢性期看護学特論Ⅰ（慢性病者行動論）	1		2		2						
	慢性期看護学特論Ⅱ（慢性病医療福祉制度論）	1		2		2						
	慢性期看護学特論Ⅲ（慢性病者アセスメント論）	1		2		2						
	慢性期看護学特論Ⅳ（慢性病者療養生活援助論）	1		2		2						
	慢性期看護学演習	1		4		4						
	慢性期看護学実習	2		6		6						
	慢性期看護学特別研究	2		4		4						
急 性 期 看 護 学	急性期看護学特論Ⅰ（急性期看護対象論）	1		2		2						
	急性期看護学特論Ⅱ（急性期精神看護論）	1		2		2						
	急性期看護学特論Ⅲ（急性期病態生理学）	1		2		2						
	急性期看護学特論Ⅳ（急性期身体治療学）	1		2		2						
	急性期看護学演習	1		4		4						
	急性期看護学実習	2		6		6						
	急性期看護学特別研究	2		4		4						
	女 性 看 護 学	女性看護学特論Ⅰ（女性健康論）	1		2				2			
女性看護学特論Ⅱ（周産期母子援助論）		1		2				2				
女性看護学特論Ⅲ（女性ライフサイクル健康論）		1		2				2				
女性看護学特論Ⅳ（女性ライフサイクル援助論）		1		2				2				
女性看護学演習		1		4				4				
女性看護学実習		2		6				6				
女性看護学特別研究		2		4				4				
感 染 看 護 学	感染看護学特論Ⅰ（感染基礎）	1		2		2			2			
	感染看護学特論Ⅱ（応用無菌法）	1		2					2			
	感染看護学特論Ⅲ（感染症看護）	1		2					2			
	感染看護学特論Ⅳ（感染防止法）	1		2					2			
	感染看護学演習	1		4					4			
	感染看護学実習	2		6					6			
	感染看護学特別研究	2		4					4			
が ん 看 護 学	がん看護学特論Ⅰ（がん病態生理・診断・治療）	1		2						2		
	がん看護学特論Ⅱ（がん看護に関する理論）	1		2						2		
	がん看護学特論Ⅲ（がん看護援助論）	1		2						2		
	がん看護学特論Ⅳ（緩和ケア）	1		2						2		
	がん看護学演習	1		4						4		
	がん看護学実習	2		6						6		
がん看護学特別研究	2		4						4			
看 護 管 理 学	看護管理学特論Ⅰ（看護制度、政策論）	1		2							2	
	看護管理学特論Ⅱ（看護組織論と人的資源活用論）	1		2							2	
	看護管理学特論Ⅲ（看護サービスの質保証）	1		2							2	
	看護管理学演習	1		4							4	
	看護管理学特別研究	2		10							10	
計			2	190	32	32	32	32	32	32	32	

### ③授業科目と担当教員

授業科目		配当 年次	単位数		担当教員
			必修	選択	
共通科目	看護学研究法	1	2		石田貞代教授
	理論看護学	1・2	2		高橋照子非常勤講師
	看護政策学	1・2	2		大室律子非常勤講師、苗村久美子非常勤講師
	看護倫理学	1・2	2		屋良朝彦非常勤講師、鈴木英子非常勤講師
	看護継続教育論	1・2	2		吉田文子准教授
	看護管理論	1・2	2		田中彰子教授
	療育相談論	1・2	2		文珠紀久野教授
	地域環境保健論	1・2	2		小田切陽一教授
	病いの社会的現象論	1	2		百々雅子准教授
地域看護学	地域看護学特論Ⅰ（家族ケア論）	1	2		佐藤悦子教授、松下裕子非常勤講師
	地域看護学特論Ⅱ（保健情報学） （地域看護学研究法）	1	2		小田切陽一教授、佐藤悦子教授、 村松照美教授、松下裕子非常勤講師
	地域看護学特論Ⅲ（行政地域看護学）	1	2		村松照美教授
	地域看護学特論Ⅳ（在宅ケア看護学）	1	2		佐藤悦子教授
	地域看護学演習	1	4		村松照美教授、佐藤悦子教授、依田純子講師、泉宗美恵講師、郷洋子講師
	地域看護学実習	2	6		村松照美教授、佐藤悦子教授、依田純子講師、泉宗美恵講師、松下裕子非常勤講師
	地域看護学特別研究	2	4		小田切陽一教授、佐藤悦子教授、村松照美教授、松下裕子非常勤講師
	老年看護学	老年看護学特論Ⅰ（高齢者健康生活評価論）	1	2	
老年看護学特論Ⅱ（高齢者・家族ケア論）		1	2		流石ゆり子教授
老年看護学特論Ⅲ（高齢者サポートシステム論）		1	2		流石ゆり子教授
老年看護学特論Ⅳ（高齢者保健福祉政策論）		1	2		流石ゆり子教授
老年看護学演習		1	4		流石ゆり子教授、河野由乃講師、小山尚美助教
老年看護学実習		2	6		流石ゆり子教授、河野由乃講師、小山尚美助教
老年看護学特別研究		2	4		流石ゆり子教授
慢性期看護学	慢性期看護学特論Ⅰ（慢性病者行動論）	1	2		松下由美子教授、旗持知恵子准教授
	慢性期看護学特論Ⅱ（慢性病医療福祉制度論）	1	2		松下由美子教授
	慢性期看護学特論Ⅲ（慢性病者アセスメント論）	1	2		松下由美子教授、旗持知恵子准教授
	慢性期看護学特論Ⅳ（慢性病者療養生活援助論）	1	2		松下由美子教授
	慢性期看護学演習	1	4		松下由美子教授、旗持知恵子准教授
	慢性期看護学実習	2	6		松下由美子教授、旗持知恵子准教授
慢性期看護学特別研究	2	4		松下由美子教授	
急性期看護学	急性期看護学特論Ⅰ（急性期看護対象論）	1	2		遠藤みどり教授
	急性期看護学特論Ⅱ（急性期精神看護論）	1	2		遠藤みどり教授
	急性期看護学特論Ⅲ（急性期病態生理学）	1	2		林正健二教授
	急性期看護学特論Ⅳ（急性期身体治療学）	1	2		林正健二教授、遠藤みどり教授
	急性期看護学演習	1	4		遠藤みどり教授、渡辺かづみ准教授
	急性期看護学実習	2	6		遠藤みどり教授、渡辺かづみ准教授
	急性期看護学特別研究	2	4		遠藤みどり教授、林正健二教授、渡辺かづみ准教授
女性看護学	女性看護学特論Ⅰ（女性健康論）	1	2		石田貞代教授
	女性看護学特論Ⅱ（産褥期母子援助論）	1	2		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
	女性看護学特論Ⅲ（女性ライフサイクル健康論）	1	2		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
	女性看護学特論Ⅳ（女性ライフサイクル援助論）	1	2		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
	女性看護学演習	1	4		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
	女性看護学実習	2	6		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
	女性看護学特別研究	2	4		石田貞代教授、伏見正江教授、滝沢美津子准教授
感染看護学	感染看護学特論Ⅰ（感染基礎）	1	2		田辺文憲非常勤講師
	感染看護学特論Ⅱ（応用無菌法）	1	2		田辺文憲非常勤講師、森本美智子准教授
	感染看護学特論Ⅲ（感染症看護）	1	2		林滋子客員教授
	感染看護学特論Ⅳ（感染防止法）	1	2		林滋子客員教授、城戸口親史講師
	感染看護学演習	1	4		林滋子客員教授、田辺文憲非常勤講師、森本美智子准教授、城戸口親史講師
	感染看護学実習	2	6		林滋子客員教授、森本美智子准教授、城戸口親史講師
	感染看護学特別研究	2	4		林滋子客員教授、森本美智子准教授
がん看護学	がん看護学特論Ⅰ（がん病態生理・診断・治療）	1	2		林正健二教授
	がん看護学特論Ⅱ（がん看護に関する理論）	1	2		梶原睦子教授、遠藤みどり教授
	がん看護学特論Ⅲ（がん看護援助論）	1	2		梶原睦子教授、遠藤みどり教授
	がん看護学特論Ⅳ（緩和ケア）	1	2		梶原睦子教授、松下由美子教授
	がん看護学演習	1	4		梶原睦子教授、松下由美子教授
	がん看護学実習	2	6		梶原睦子教授他
	がん看護学特別研究	2	4		梶原睦子教授
看護管理学	看護管理学特論Ⅰ（看護制度、政策論）	1	2		田中彰子教授
	看護管理学特論Ⅱ（看護組織論と人的資源活用論）	1	2		田中彰子教授
	看護管理学特論Ⅲ（看護サービスの質保証）	1	2		田中彰子教授
	看護管理学演習	1	4		田中彰子教授
	看護管理学特別研究	2	10		松下由美子教授、田中彰子教授
計			2	190	

### 3) 大学院生の動向

#### ①学生数

区分 入学年度	入 学	辞 退	異 動 状 況		
			退 学	休 学	留 年
1年次	11	0	0	0	0
2年次	9	0	1	0	5

※ 休学者は現数

#### ②奨学金貸与状況

区分 入学年度	日 本 学 生 支 援 機 構		山 梨 県 修 学 資 金	計
	第 一 種	第 二 種		
21年度	1	1	1	3

#### ③入試状況

年 度	区 分	募 集 定 員	項 目	県 内			県 外			全 体			倍 率		
				女	男	計	女	男	計	女	男	計	出 願	受 験	合 格
21	社会人 特別選抜	10	出願者	7	0	7	5	3	8	12	3	15	1.70	1.70	1.55
			受験者	7	0	7	5	3	8	12	3	15			
			合格者	4	0	4	5	1	6	9	1	10			
			入学者	2	0	2	5	1	6	9	1	10			
	一般選抜		出願者	1	0	1	1	0	1	2	0	2			
			受験者	1	0	1	1	0	1	2	0	2			
			合格者	1	0	1	0	0	0	1	0	1			
			入学者	1	0	1	0	0	0	1	0	1			
	合 計	10	出願者	8	0	8	6	3	9	14	3	17			
			受験者	8	0	8	6	3	9	14	3	17			
			合格者	5	0	5	5	1	6	10	1	11			
			入学者	6	0	6	5	1	6	10	1	11			

#### ④健康管理状況

健康診断

	対象者	受診者	受診率	要精検者	要精検者
21年度	25	5	20.0%	2	40.0%

ツベルクリン検査

		受診者	陽性		陰性	
21年度	1回目	8	7	87.5%	1	12.5%
	2回目	4	4	100.0%	0	0.0%

#### ⑤修論審査

##### 【地域看護学】

山梨県内の訪問看護師がもつスピリチュアリティの実態に関する検討

- <sup>スピリチュアリティ</sup>神気性評定尺度を用いて— …………… 湯本 理子
- 高齢者の自立と過去の生活行動に関する研究 …………… 橋本満知子
- 病児をもつ母親の育児対応と家族機能について
- 小児慢性特定疾患児のきょうだいへの対応を中心に— …………… 大久保弥生

##### 【慢性期看護学】

- 保存期糖尿病腎症女性患者が食事療法を継続するための意欲に関連する要因 …………… 須森未枝子

##### 【急性期看護学】

- 重症患者の栄養管理に対するICU看護師の認識 …………… 牛山 佳菜

##### 【看護管理学】

- 病院組織に制度として看護職副院長が継承されていくための要件に関する研究 …………… 阿相 信子
- ラオス国A病院の看護の改善における国際看護活動の果たした役割
- 看護管理の枠組みから— …………… 望月 経子
- 熟練看護師の術後疼痛緩和における臨床判断に関する質的研究 …………… 丹沢 早苗